



世界の国を知る  世界の国から学ぶ

# わたしたちの地球と未来

 マーシャル諸島共和国 



## 【表紙の写真】

(右上)

マーシャル諸島は、いくつもの小島が連なってできている国。  
美しい海に浮かぶ真珠のネックレスのよう  
です。

(左下)

離島での1歳の誕生日パーティー(ゲームン)で歌を披露する女性グループ。

( P.10 **5** )

# Contents

01 こんな想いを込めました!

02 こんな教材です!

03 なぜマーシャル諸島共和国?

## 第1章 マーシャル諸島共和国ってどんな国?

= 美しくも、はかないサンゴ礁に

助け合って楽しく暮らす =

05 オセアニアの島々

07 サンゴのできた島、マーシャル諸島

09 マーシャル諸島クイズ!

11 マーシャル諸島の都会と田舎

13 マーシャルの暮らしを支えるもの

15 ちょっとブレイク

~ マーシャルの人はどこから来たの? ~

## 第2章 ヘえ~! マーシャル諸島共和国と日本

17 日本とのつながり ~新しい関係づくり~

19 違うところと同じところ

21 フォトギャラリー

~ マーシャルの人々の日常 ~

## 第3章 一緒に考えよう! こんな課題

23 放射能汚染と核実験補償金

~ マーシャル諸島が背負った苦悩 ~

25 やめて! 沈んじゃう!!

27 どちらが豊かなのかな?

29 ちょっとブレイク

~ 核実験の悲劇 ~

~ マーシャル諸島の暮らしに欠かせないココヤシ ~

## 第4章 そして未来へ

31 世界を変えるスピーチ

33 この星をこれ以上こわし続けないで

~ 12歳の少女が地球サミットで語った伝説のスピーチ ~

## 参考資料

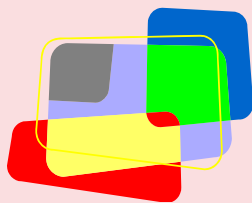
37 目で見るマーシャル諸島

39 マーシャル諸島地図

41 参考文献・データ等の出典

41 ご協力いただいた方

41 2009年度教材作成チーム



# こんな想いを込めました！

愛知万博で体験した国際交流の楽しさを広げていきたい！つなげていきたい！  
そんな想いが本書作成のきっかけでした。



## 国際交流は楽しい！

『世界大交流』をうたった2005年愛知万博。120カ国の文化や生活に触れたり、いろいろな国の人たちと話をしたりすることは、とても楽しい経験でした。「国際交流」は決して難しいことではありません。自分の視野を広げ、他者を尊重する力を育むことにもつながり、そうした力は多文化共生社会を実現するためにも欠かせません。そんな国際交流の楽しさ、大切さを愛知から発信していきたいと考えました。

## 人の顔が見える教材をつくりたい！

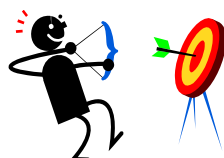
「日本ってこんな国」「日本人ってこんな人」って決めつけられて違和感を感じた経験はないでしょうか？ 国全体の概要を知ることもちろん大切ですが、何となく持っている固定概念をもしかしたら裏切るような、「へえ～、こんな一面もあるんだ」と意外に思えるような、そんな教材をつくりたいと考えました。そうすることによって、「わたしたちが世界のことをいかに知らないか」ということや「普段見聞きしている情報はほんの一面にすぎない」ということに気づいてもらうとともに、そこに住んでいる人々を身近に感じてもらえたらいいなと思います。

## 世界の国から学ぶ！

どんな国もいいところ、悪いところ、いろいろな面を持っています。何が幸せなのか、「豊か」の基準は何なのか、といった価値観もさまざまです。例えば、途上国だから「かわいそうな国」ではありませんし、紛争があるから「こわい国」でもありません。日本にもたくさん問題があります。様々な国の、特にすばらしいところを知ることによって、対等な関係をつくとともに、自分たちの地域や生活をふりかえることができると考えました。国にも人にも文化にも優劣はないことを踏まえて、お互いに学び合える関係ができればいいなと思います。

## 未来を創るのはわたしたち！

地球はさまざまな課題を抱えています。環境や人権や平和など、日本も無関係ではありません。地球に住む一人ひとりがそれらの課題に取り組まなければ、よりよい未来を創ることはできないのです。そしてよりよい未来を創るためには、今、地球で起きていることは何なのかを知り、それが自分とつながっていることに気づくことが大切だと考えました。本書に掲載されていることは、地球で起きていることのほんの一部ですが、それらを通して感じたこと、気づいたことが未来につながっていくといいなと思います。



# こんな教材です！

次のようなことを考えて作りました。

## ファシリテーター・先生用の教材です

内容については、小学生高学年以上を対象としていますが、本書自体は、ファシリテーター(参加型プログラムの進行役)や先生に使っていただくための教材となっています。ことば遣いなど、対象に合わせて直してください。必要に応じてコピーし、配布していただいても結構です。

## 参加型で使うことができる教材です

情報・知識を聞くだけでなく、考えたり、作業をしたり、話し合ったりすることによって楽しく学べるとともに、その中で何かを感じたり、気づいたりしてもらえようようなプログラムにしました。基本的には4～6人のグループに分かれて行うプログラムになっています。必ずしも正解があるものばかりではありません。参加型のプロセスを大切にいただければと思います。

## きっかけづくりの教材です

本書で紹介したのは、マーシャル諸島共和国のほんの一面です。本書だけでマーシャル諸島共和国のすべてがわかるわけではありません。マーシャル諸島共和国に親しみを感じ、関心をもってもらうと同時に、自分たちの地域をふりかえり、地球的課題を考えるきっかけとして活用してください。

## 使い方は自由です

とはいうものの、使い方は自由です。もちろん、最初から順番にやる必要はありません。対象に応じてプログラムの進め方を変えたり、時間的な条件によって短縮したりするなど調整することもできます。参加者にあわせてどんどんアレンジして使ってください。巻末に参考資料を掲載していますので、最新のデータが必要なときや、もっと深めたいときは、活用してください。

## カラーデータ・写真はダウンロードできます

カラーデータ・写真については、(財)愛知県国際交流協会のホームページからダウンロードできます。ただし、著作権は出典元または(財)愛知県国際交流協会に帰属します。学校関係や国際交流団体等が教育の目的で非営利に使う場合に限り、活用していただけます。

## 本書の構成とマークの見方

基本的に、1項目2～4ページで掲載しており、実際に使っていただくプログラムと、それに関する説明とで構成されています。それぞれのプログラムの「ねらい」も記載していますので、参考にしてください。また、ページの下段に掲載している一口コラムは、プログラムとは関係なく、ちょっとおもしろい情報や用語の意味などです。必要に応じて活用してください。なお、本書で使っているマークの意味は次の通りです。



参加型のプログラムです。  
必要に応じてコピーし、配布してください。



プログラムで模造紙を使います。



プログラムに関する説明です。  
ファシリテーター・先生用です。



プログラムでマジックを使います。



プログラムのねらいです。



プログラムで付箋を使います。



ちょっとブレイク！一口コラムです。



プログラムでA4用紙を使います。  
裏紙等を活用してください。



プログラムに使う資料です。  
必要に応じてコピーし配布してください。



データ等の出典です。



コピーし、カード等に切り離して  
使ってください。



写真の撮影者です。



# なぜマーシャル諸島共和国？

始まりは、2005年愛知万博「一市町村一国防レンドシップ事業」

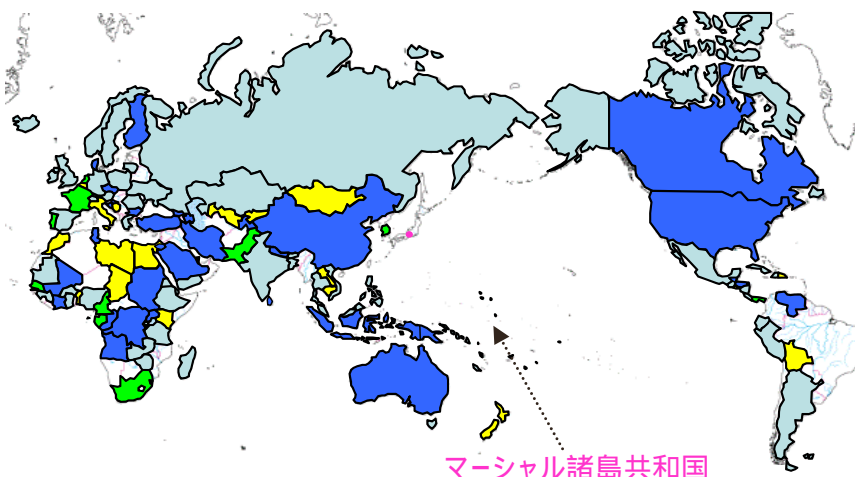
2005年に開催された愛知万博の会期中愛知県内の市町村は、公式参加国120カ国(日本を除く)のホームシティ・ホームタウンとして、地域ぐるみのホスピタリティあふれる受入を行いました。この取り組みを「一市町村一国防レンドシップ事業」と言います。このフレンドシップ事業では次の5つのことをねらいとしました。

- 世界各地から訪れる人々に日本や日本人を理解してもらう
- 迎え入れる地域の人々に、交流を通じて、世界には多様な価値や文化があることを知ってもらう
- 万博会場内だけでなく、地域でもてなすことで、万博を相互交流を深めるための大きな舞台とする
- 地域文化を世界に発信することにより、各地域が自らの文化を再発見し、地域のあり方や発展の方向性について学ぶ機会とする
- 地域に根ざした「人」と「人」との交流を万博終了後も引き継ぎ、世界の人々をつなぐ架け橋としてさらに発展させる

この「一市町村一国防レンドシップ事業」をさらに広げ、つなげていこうと作成したのがこの教材です。そして、マーシャル諸島共和国のホームタウンは、飛島村でした。



愛知万博 / 南太平洋共同館



マーシャル諸島共和国

- 本教材
- 2009年度教材作成予定の国
- 2008年度教材作成の国
- 2007年度教材作成の国
- 愛知万博公式参加国

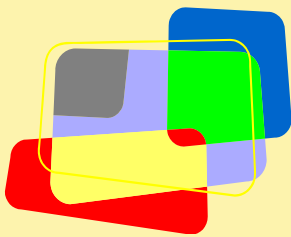
2009年度作成 予定 (33カ国)	アゼルバイジャン共和国 アメリカ合衆国 アンゴラ共和国 イラン・イスラム共和国 インドネシア共和国 ウガンダ共和国 オーストラリア連邦 カナダ グルジア コートジボワール共和国 コンゴ共和国 サントメ・プリンシペ民主共和国 スーダン共和国 スリランカ民主社会主義共和国 タイ王国 タジキスタン共和国 中華人民共和国 チュニジア共和国 デンマーク王国 トルコ共和国 ネパール連邦民主共和国 パプアニューギニア独立国 フィンランド共和国 ブルガリア共和国 ベネズエラ・ボリバル共和国 ベリーズ ボスニア・ヘルツェゴビナ ホンジュラス共和国 <b>マーシャル諸島共和国</b> マリ共和国 ヨルダン・ハシェミット王国 リトアニア共和国 ルワンダ共和国
2008年度作成 (20カ国)	イタリア共和国 ウズベキスタン共和国 エジプト・アラブ共和国 エルサルバドル共和国 カンボジア王国 キリバス共和国 キルギス共和国 ケニア共和国 サウジアラビア王国 大リビア・アラブ社会主義人民ジャマール・ヒリーヤ国 チャド共和国 ドミニカ共和国 ニュージーランド フィジー諸島共和国 ベナン共和国 ベルギー王国 ボリビア共和国 モロッコ王国 モンゴル国 ラオス人民民主共和国
2007年度作成 (10カ国)	オランダ王国 ガボン共和国 カメルーン共和国 セネガル共和国 大韓民国 パキスタン・イスラム共和国 パナマ共和国 フランス共和国 ポルトガル共和国 南アフリカ共和国



## 第1章

# マーシャル諸島共和国って どんな国？

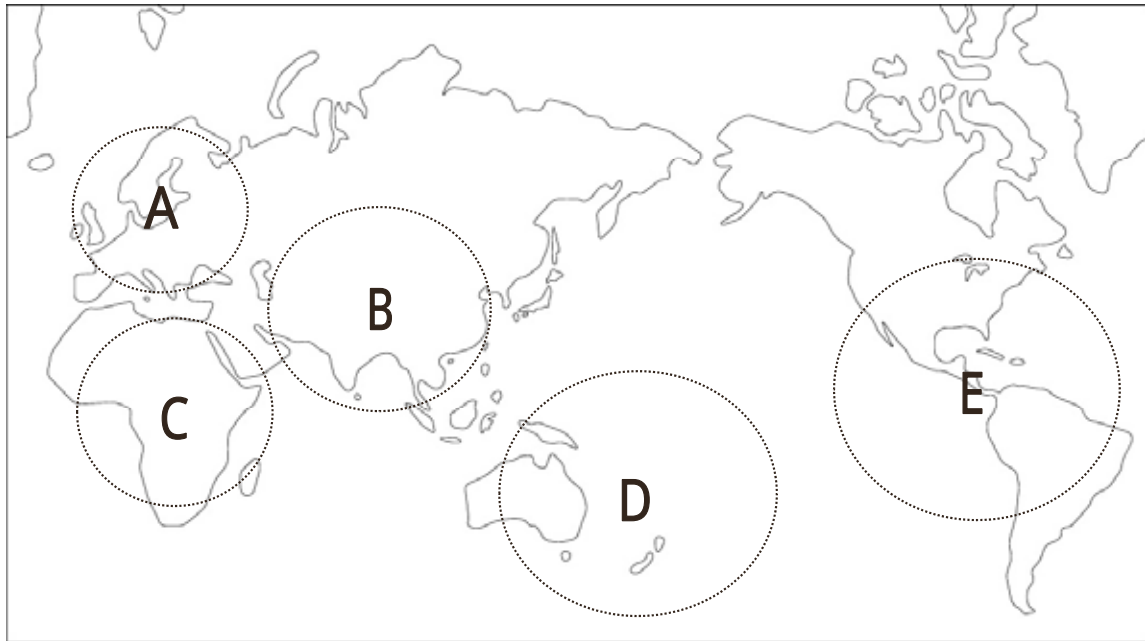
= 美しくも、はかないサンゴ礁に  
助け合って楽しく暮らす =



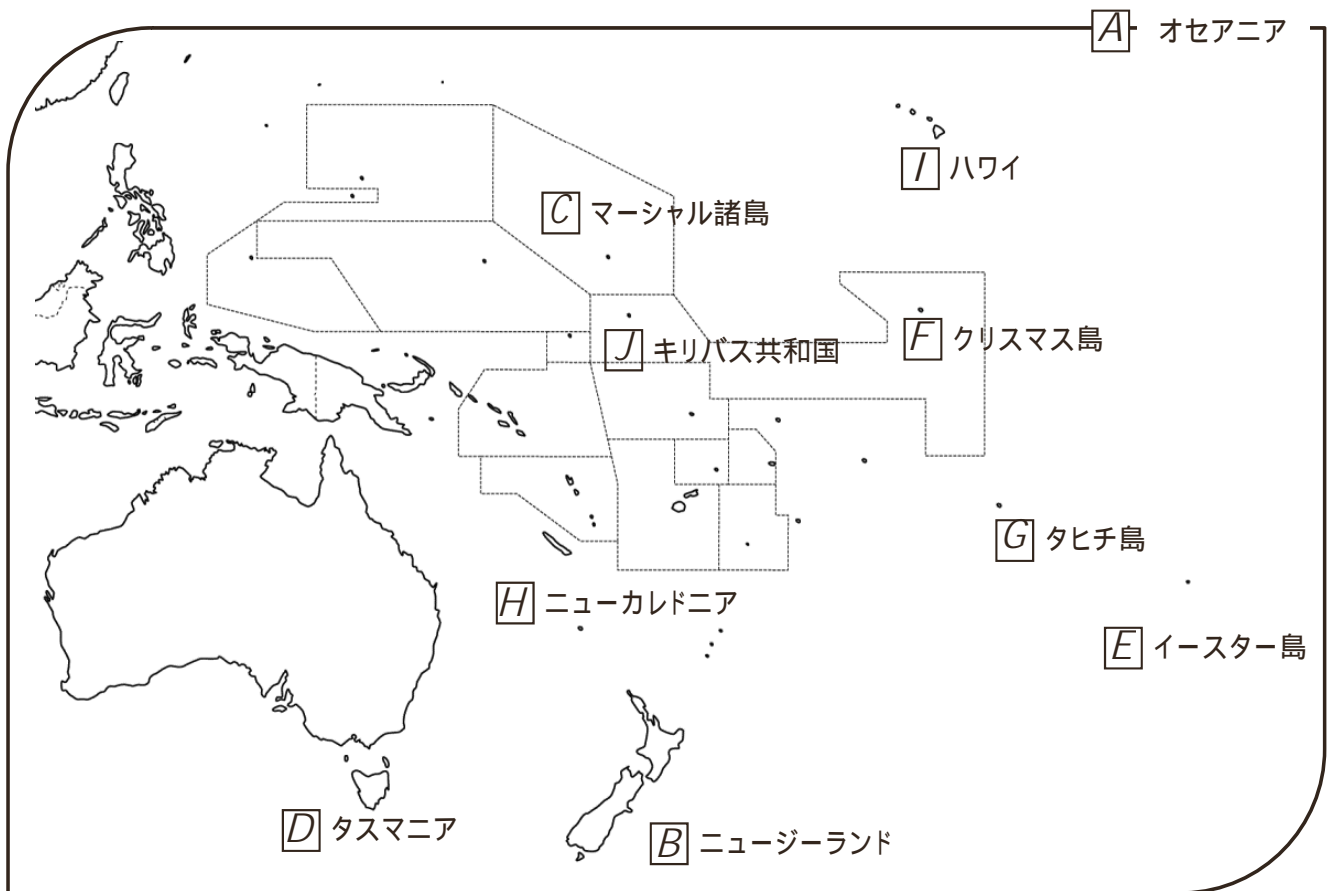
# オセアニアの島々

① マーシャル諸島のこと、どのくらい知っていますか？

① マーシャル諸島は次のどの地域にあるでしょう？



② A～Jは、オセアニアに位置する国名や地名です。それぞれ名前がつけられた由来は何だと思いませんか？  
下の～から選んでみましょう。



発見にちなんで

現地語から

その他





1 D オセアニアです。

太平洋諸島とオーストラリア大陸とを合わせた地域をオセアニア(大洋州)と呼びます。太平洋の大半を含むので、その範囲は広大ですが、陸地総面積は900万km<sup>2</sup>に足りず、しかもオーストラリア大陸、ニューギニア、ニュージーランドでその98%を占め、残りの数千を数える島々の総面積は、わずか18万km<sup>2</sup>です。

大陸をのぞいたオセアニアの島々は、メラネシア(ギリシア語で「黒い人のいる島々」の意味)、ポリネシア(ギリシア語で「多数の島々」の意味)、ミクロネシア(ギリシア語で「小さな島々」の意味)の3地域に区分されます。

2 A オセアニア その他

ギリシア神話のオケアノスから来ています。わけの分からない怪物のすんでいる場所という意味です。

C マーシャル諸島

発見にちなんでマーシャル諸島を発見したイギリス人船長の名前です。マーシャル船長は、ちょうどイギリスからオーストラリアに囚人を護送した後に、紅茶を中国からイギリスに運ぶために中国の広東に向かっていました。その航海の途中でマーシャル諸島を再発見したのです。「再発見」というのは、一度発見されながらも忘れられていたためです。

J キリバス共和国

発見にちなんでマーシャル諸島の名前の由来となったマーシャル船長と同じ船に乗っていたギルバード船長の名にちなんで命名されました。

I ハワイ

現地語から

F クリスマス島

発見にちなんで発見者であるイギリス人クックがクリスマスをこの島で過ごしたことによります。

G タヒチ島

現地語から

E イースター島

発見にちなんで現地語名はラバヌイといいますが、なぜイースター島と名づけられたかという、オランダ人が復活祭(イースター)の日に発見したためにこの名前がつけられました。

H ニューカレドニア

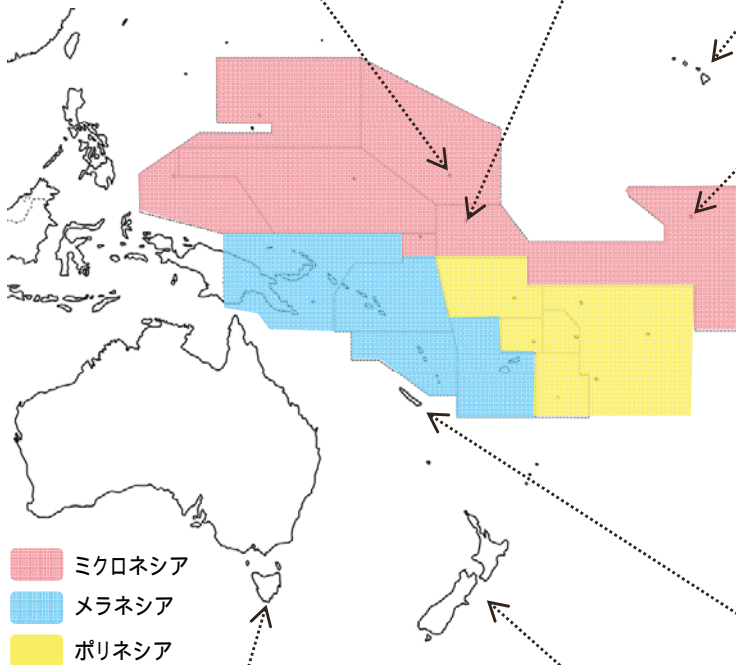
発見にちなんでこの地を訪れたイギリス人クックが、その風景がクックの故郷カレドニア(現スコットランド)を思い出させたことから命名されました。

B ニュージーランド

発見にちなんで「新しいゼーランド」という意味です。ゼーランドとはオランダにある地名で、ニュージーランドを発見したオランダ人タスマンの生まれ故郷にちなんでいます。

D タスマニア

発見にちなんで1642年オランダ人タスマンが発見しました。のちの移住者が、この発見者にちなんでタスマニアと呼ぶようになりました。

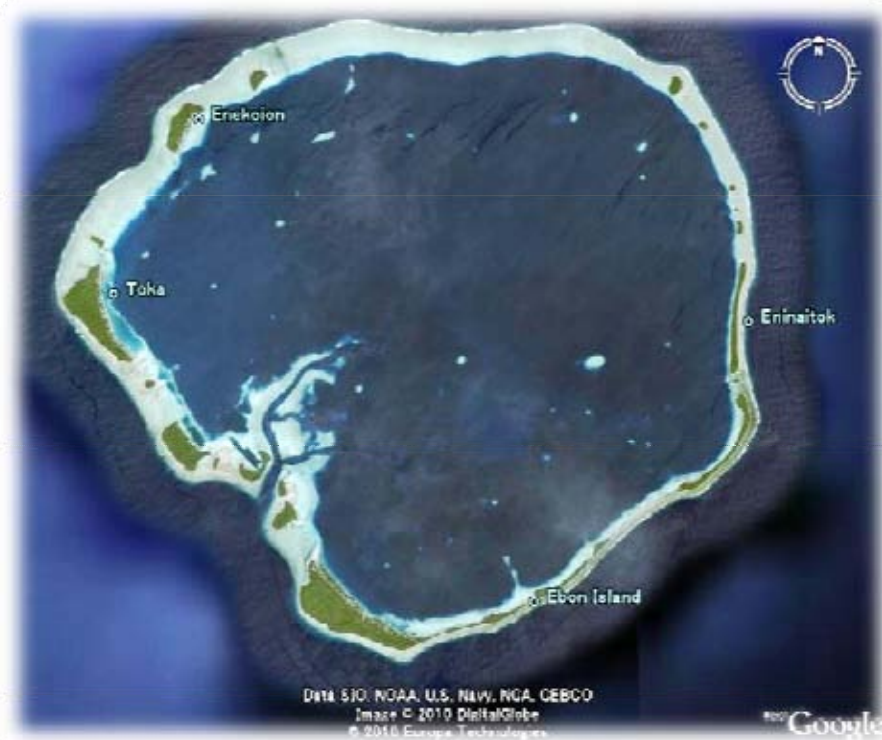


# サンゴでできた島、マーシャル諸島


① 周りの自然環境と共存しながら暮らしているマーシャル諸島の人々、美しいだけではない、その暮らしぶりをちょっとのぞいてみましょう。

① 下の写真を見てみましょう。マーシャル諸島には広い大地はありません。飛行機に乗って上空から眺めると、平らな小さいいくつもの小島が輪になって連なっています。それを環礁(かんしょう)といいます。まるで真珠のネックレスのようです。ところでこのマーシャル諸島は、実は土ではない、あるものでできているのですが、一体何でできているでしょう？

[A] 人工的につくられたコンクリート [B] サンゴ [C] ふりつもった火山灰 [D] 恐竜の死がい [E] 石炭



マーシャル諸島エボン環礁。22の島から形成されている。濃い群青色の部分が海、薄い水色の部分がサンゴ礁の浅瀬である。この浅瀬の上に大小様々な形の島(濃い緑色の部分)が輪になって並んでいる。

 ゲーグルアース

- ② マーシャル諸島にはいくつの環礁があるでしょう？
- ③ 小さな島で囲まれてできている場所(海)をラグーンと言います。ここは遠浅になっていますが、島の人は何に利用しているでしょう？
- ④ サンゴとは何でしょう？
- ⑤ サンゴは環境の変化に強いでしょう？ 弱いでしょう？
- ⑥ サンゴの上には、たくさんの植物が育つでしょう？ それともあまり多くの種類の植物は育たないでしょう？
- ⑦ サンゴ礁は人々の生活にとってなくてはならないものなのでしょうか？ それとも人間が生活していくうえで、あまり資源を生み出さないものなのでしょうか？

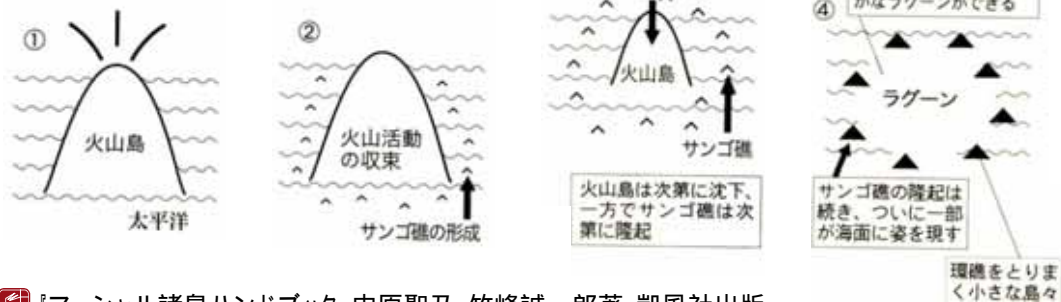
### 1 2 B サンゴ 環礁は29 ( P.12地図参照)

マーシャル諸島には広い大地はありません。赤道の北800キロ、首都のあるマジュロを中心に200万km<sup>2</sup>の広大な海域にある29の環礁と5つの独立した島からできています。1つの環礁は、3～100個の島が輪の形を成して並んでいます。それらの環礁や島々は、東側を「ラタック列島」、西側を「ラリック列島」と2つに分けて呼ばれています。マーシャル語で「ラタック」が「夜明け」、「ラリック」が「日没」を意味します。

首都マジュロのあるマジュロ環礁は57の島が100キロ余りにわたってつながっています。しかしその島幅は歩いて2分ほどで横断できてしまうほど。海面によやく頭を出している島々にはいわゆる表土がほとんどありません。環礁の外側は太平洋の荒波が打ち寄せています。小島から1キロ程度はサンゴ礁の浅瀬が続きますが、その後はいきなり深い海になります。環礁の中はラグーンと呼ばれ、水深は深いところでも数十メートルの比較的浅い海になっています。

マーシャル諸島はかつて、火山島でした。火山活動が収束すると、陸地に植物が育ち、沿岸にサンゴ礁が形成されます。やがて、火山は沈み、島の周囲にあったサンゴ礁だけが成長して、一部が海面に顔を出し、島となったのです。

#### 環礁が形成されるまで(イメージ図)



『マーシャル諸島ハンドブック』中原聖乃・竹峰誠一 著 凱風社出版

### サンゴはか弱い動物！？ 4 5

私たちが目にするサンゴは、サンゴの家です。このサンゴの家は蜂の巣のようになっていて、その一つひとつに、動物のサンゴが入っています。サンゴは褐虫藻という藻を寄生させています。この褐虫藻が光合成をすることで生み出される栄養分でサンゴは生きています。夜になると褐虫藻は光合成をしないので、その場合には、サンゴは触手を伸ばして海中のプランクトンを食べます。

サンゴ礁はとても美しいのですが、一方でとても弱いものです。人が上を歩いたり、ゴミを捨てたりして少しずつ壊されます。また温度が少し上がるだけでも死んでしまうのです。



全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト (<http://www.jccca.org/>)

### マーシャル諸島 右も左もすべてサンゴ 3 6 7

マーシャル諸島は29個の環礁と5つの島から成り立っていますが、すべてサンゴでできています。人が歩くのもサンゴの上。ビルも家もサンゴの上に立っているし、木もサンゴの地面に植わっています。近年アスファルトの道路が出来ていますが、それもサンゴの地面上に敷かれています。サンゴの土壌は栄養分が多くありません。そのため育つ植物も限られています。日本で普通にできるトマト、きゅうり、ナスといった野菜はマーシャル諸島のサンゴの土壌では育つことができません。サンゴの土で育つのはココヤシ、タコノキ、パンノキ、タシロイモなどの植物です。まれに、バナナ、パイナップル、タロイモなどが出来るところもあります。一方、ラグーンは、天候の荒れた日でも波は比較的穏やかなので、環礁で暮らす人びとの漁場となっています。魚、タコ、イカ、エビ、貝などさまざまなものが獲れます。

マーシャル諸島の人びとは、サンゴ礁から生み出される海洋資源、陸地資源などを効果的に利用して生活しています。ということはサンゴ礁の環境が破壊されてしまうと、人びとの生活が成り立たなくなるのです。それほど人びとにとってサンゴ礁は大切なものなのです。

# マーシャル諸島クイズ！



今でも伝統を大切に守りながら暮らしているマーシャル諸島。さて、次に書かれていることはウソ？ ホント？

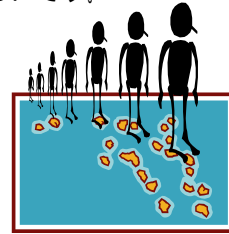
① マーシャル諸島は、太平洋にあります。正確には、赤道よりも南にあります。



② マーシャル諸島で標高が一番高いところは、鉄塔の頂上です。



③ マーシャル諸島は小さな国です。全人口は、名古屋市と同じくらいです。



④ マーシャル諸島の国土はとても小さいです。その小ささは、なんと名古屋市の半分しかありません。



⑤ マーシャル諸島の子供が1歳の誕生日を迎えると、村の人総出で盛大にお祝いします。



⑥ マーシャル諸島の主食は主にお米です。朝食はドーナッツやパンケーキを食べる事が多いのですが、昼食と夕食では、ご飯を食べます。



⑦ マーシャル諸島のお金は、マーシャル独自の通貨です。ずいぶん昔は貝をお金の代わりに使っていたこともありました。



⑧ マーシャル諸島のクリスマスは、一家団らん静かに過ごします。日本のようにレストランに行って食事をすることはほとんどありません。



⑨ マーシャル諸島でも核家族化が進んでいます。現在10人を越えるような大家族はほとんど見られなくなりました。



- ① **×ウソ** マーシャル諸島は赤道よりも北にあります。よく、マーシャル諸島は「南太平洋にあります」と言われるのを聞く事が多いのですが、国の場所は間違えないようにしたいですね。
- ② **ホント** マーシャル諸島で一番高いところは、なんと鉄塔のてっぺんです。マーシャル諸島はサンゴ礁でできており、国内の一番標高の高いところでも5メートルに過ぎません。平均標高は約2メートルです。だから、低気圧が発生すると海面が上昇するうえに、大きな波が起こります。時にこの波は、島の東から西に通り抜け、水浸しになります。
- ③ **×ウソ** マーシャル諸島の人口は、約6万人で愛知県清須市と同じ位です。とても小さい国土なので、人口の増加は国にとっては切実な問題となっています。現在、マーシャル諸島政府は、パスコントロールをして、産児制限を行っています。ちなみに、名古屋の人口は2,258,280人です。(2010年2月1日現在)
- ④ **ホント** マーシャル諸島の面積は、181平方キロメートルで名古屋市の約半分くらいです。ただ、大きな陸地はなく、たくさんの小さい島で出来ています。ほとんどの島が無人島ですが、無人島も食料調達のために利用されています。
- ⑤ **ホント** マーシャル諸島では子どもが1歳の誕生日を迎えると、村人全員でお祝いをします。これをケーメンと言います。たくさんのお金がかかるので、銀行などに借金をする人もいます。この日は、村の人総出で準備をします。
- ⑥ **ホント** マーシャル諸島の主食は主にお米です。以前日本がマーシャル諸島を統治していた名残です。お米の味が忘れられなかったのですね。
- ⑦ **×ウソ** マーシャル諸島のお金は、米ドルで独自の通貨はありません。ずいぶん昔は貝をお金の代わりに使っていました。
- ⑧ **×ウソ** マーシャル諸島では多くの人がキリスト教を信じています。マーシャル諸島のクリスマスは、村人全員で盛大にお祝いします。島の人々は、2つのグループに分かれてダンス、演劇、歌などの出しものを半年も前から準備して、当日競い合います。
- ⑨ **×ウソ** ほとんどの世帯が大家族です。中には20人近くになる世帯もあります。



パーティの様子

中原聖乃

# マーシャル諸島の都会と田舎

① マーシャル諸島は都会の生活と離島部と言われる田舎の生活スタイルが随分違います。どんな風に違うのでしょうか。

① マーシャル諸島共和国は、29の環礁と5つの独立した島からできています。首都「マジュロ」と基地の町「イバイ」という2つの都会がありますが、ほとんどは離島です。下の写真はすべてマーシャル諸島の写真ですが、都市部の写真と離島部の写真に分けてみましょう。

A



B



C



D



E



F



② 写真を見て都市部と離島部の生活を想像してみましょう。

日本の生活と比べてどうですか？

みなさんだったら、どちらに住んでみたいですか？ それはなぜですか？

みんなで自由に話し合ってみましょう。

📷 すべて中原聖乃



P.11のこたえと解説です。



どんな国にもいろいろな面があることを知り、固定概念で国をとらえないようにしましょう。

都市部の写真は、

A 米軍基地

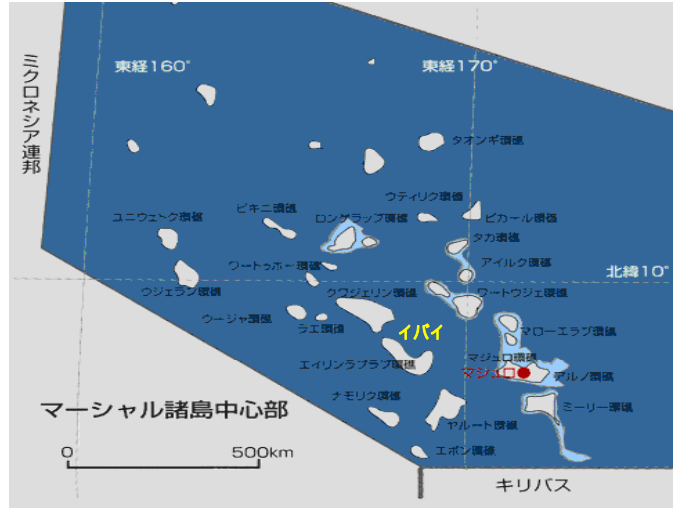
B  E 首都マジュロの市街地

F イバイ

離島部の写真は、

C 洗濯中!

D カヌー作り



( P.21 フォトギャラリー 参照)

PIC太平洋諸島センターウェブ

### 首都「マジュロ」

マジュロ環礁は64個の小島でできています。小島をあわせた陸地面積は、9,708平方キロメートルで、約2万5,000人が暮らしています。このマジュロ環礁の中には、ダウタウンと呼ばれる中心地があり約8,500人が住んでいます。ダウタウンには、政府機関、銀行、病院、高校、短大、ホテル、スーパーマーケットなどがあります。電気、水道、電話はありますが、ガスはありません。公共機関は相乗りタクシーで、鉄道はありません。

### 基地の町「イバイ」

イバイは基地の町です。イバイから船で20分のところに、クワジェリン本島があり、島がまるごと米軍基地になっています。米軍基地には、基地施設のほかに、広い芝生の広場、スーパーマーケット、レストラン、スポーツジム、テニスコートなどがあり、給料も若干高めです。またアメリカ人家庭のハウスマイドの仕事もあります。クワジェリン本島は全島が基地なので、基地関係者以外は住めません。基地労働者は、イバイに住んで船で通勤するのです。この基地雇用が人をひきつけ、マーシャル諸島だけではなく、時には隣国のミクロネシア連邦からも雇用を求めてやってきます。現在イバイの人口は約10,000人です。

イバイは、1970年代は太平洋のゲットー(スラム街のこと)と言われていました。現在はかなり改善されたとは言え、それでもまだまだ生活は大変です。電気、水道、電話はあるのですが、頻りに停電や断水が起きます。また水道代が高いので、水道を引いている家庭はそれほど多くありません。南の島なのにココヤシはほとんどなく、島のほとんどが、ブロック、ベニヤ板、トタン屋根などでできた簡素な家で覆われています。マーシャルの人でさえなかなか行きたがらない場所です。

### 離島

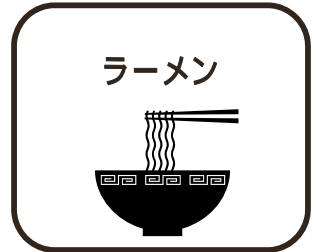
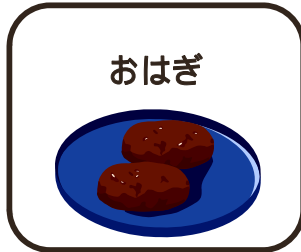
マーシャル諸島のほとんどは離島です。離島には、一般家庭用の公共の電気、ガス、電話、水道はありません。雨水や井戸水を利用し、明かりはランプ、煮炊きはココヤシの殻などを燃料として使います。小学校にはソーラー発電などが設置されているところもあります。ココヤシ、パンノキ、タコノキ、タシロイモなどの地元で採れるものや、魚介類などの海洋資源を使って生活しています。

家はほんの数十年前まではタコノキやココヤシを使って建てられていましたが、現在ではベニヤ板やトタン、ブロックを使って建てられています。タコノキやココヤシを使った家は風が通り抜けていて涼しかったのですが、ブロックやベニヤ板でできた家は、頑丈ですが、通気性が悪く昼間は蒸し風呂のようになります。

# マーシャルの暮らしを支えるもの

① マーシャル諸島で食べられているものは?

① 次のうち、マーシャル諸島で食べられているものは何でしょう?



② 次の写真は、マーシャル諸島の暮らしに欠かせない植物の写真です。さて、何という植物かわかりますか?

A



B



C



ウィキペディア

③ マーシャル諸島は、サンゴ礁からできており、塩分を含んだ潮風が絶えず吹いていることもあり、農作物を作るには適していません。植物の種類も限られている中、上の写真の3つは貴重な植物で、食用のほか、さまざまな目的で有効に活用されています。では、次のうち、ココヤシから作られているのはどれでしょう?

活性炭

マット

ロウソク

石けん

鉛筆

ココナッツケーキ

マーガリン

ハンカチ





P.13のこたえと解説です。



マーシャル諸島の日常生活に触れ、生活の知恵を学ぼう。

- ① 『おはぎ』と『すき焼き』以外は、マーシャル諸島でも食べられています。
- ② **A** ココヤシ 世界中の熱帯地方を中心に230属、約3500種があります。  
**B** タコノキ 木根がタコの足のようなので、タコノキと呼ばれています。  
**C** パンノキ 果実は黄色～黄褐色で直径10-30cm、果肉にでんぷんを含み、蒸し焼きや丸焼き、あるいは薄切りにして焼いて食べられます。また火で乾かしてビスケット状にし、貯蔵します。
- ③ ココヤシから作られているのは、活性炭、マット、石けん、ココナッツケーキ、マーガリン、ロウソク、鉛筆、ハンカチは作られていません。



タケノキとパンノキの料理



## 普段の食事とパーティの食事

### 普段の食事

- 【朝食】朝は、ホットケーキ、ドーナツ、パン、残り物のご飯、ラーメンなど様ざまです。ラーメンはサッポロ一番がお気に入り、スーパーに山積みされて売られています。飲み物は紅茶やコーヒー、クールエイドという粉末を水に溶かした飲み物などです。
- 【昼食】昼食は、ご飯、朝食の残りのホットケーキやドーナツなどです。シーチキンやコーンビーフの缶詰をそのまま食べたり、コーンビーフやスパムの缶詰や鶏肉を焼いたりします。都会ではローカルフードを調理することはあまりありませんが、離島では焼いたパンノキの実を塩を加えたサラダオイルに浸して食べたり、魚をゆでたりもします。魚の干物にコプラを一緒に食べる事もあります。
- 【夕食】夕食は7時か8時ごろから食べます。主食はたいていご飯です。副食は離島部と都市部で大きく異なります。離島部では魚を焼いたり、ゆでたりしたものや、魚の干物にココナッツの果肉を添えて食べたりします。魚を生で食べますが、「サシミ」と呼んでいます。日本語が残っているのです。時にはタコを醤油で煮たもの、イセエビなども食べる事がありますが、かなりのご馳走です。日本の植民地時代に覚えた味です。都市部では、冷凍の肉やスパムを焼いたり、シーチキンをそのまま食べたりします。野菜が食卓に上ることはあまりありません。



釣れた魚をさばく

### パーティの食事

椰子の木、パンノキ、タコノキの実などの保存食やその加工品、カメ、などを食べます。このような伝統食は、以前は日常的に食べていたのですが、人びとが都市で暮らすようになってから主にパーティーで食べられるようになってきました。離島部では都市部よりも頻繁に食べます。最近では、離島部でもスパムやシーチキンなどの缶詰を食べることが多くなってきました。また牛肉、鶏肉などをバーベキューしたものを食べたりもします。



みんなでパーティを準備中

日本でおなじみのトマト、きゅうり、レタスなどは都会のスーパーに少しだけ売っています。ただ、都会の人もほとんど野菜を食べません。離島ではまったく食べず、ナスを見た事がない人もいます。離島の売店にはジャガイモとたまねぎは売っています。これは頻繁に行われるパーティーのスープ用です。10年以上前、野菜はほとんど外国から輸入していましたが、現在はマジロ環礁の西端のローラにある農園で、ナス、トマト、キュウリなどを栽培しています。マーシャル諸島のサンゴの土壌では野菜は育たないので、外国から土壌を運んできて野菜を作るのです。

マーシャル諸島の地元で取れる食材は、ココヤシの実、タコノキの実、パンノキの実、タシロイモ、タロイモ、バナナ、パイナップルなどです。ただこれらのものは、畑のようところで栽培して手をかけて育てるものではありません。パンノキやタコノキは家のそばに植えられ、ココヤシだけはかなりまとまって植えられていますが、いったん種を植えたらあとは下草を刈るくらいで、ほとんど手入れは要りません。



国営の石鹸工場内部。ココヤシの油から石鹸を作る。手作業が多い。



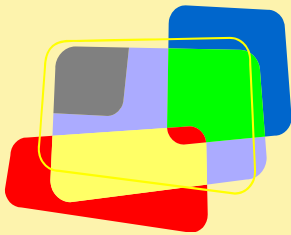
ちょっとブレイク



 第2章

へえ～！

マーシャル諸島共和国と日本



# 日本とのつながり ~新しい関係づくり~

① ？ 実は、マーシャル諸島と日本、深いつながりがあるのです。

① 次のことばはマーシャル諸島で使われていることばですが、実は日本語から派生したことばです。さて、日本語のどんな言葉から派生し、マーシャル諸島ではどういう意味で使われているでしょう？

チャンポ

サシミ

ニカイ

デンキ

ピトン

ジメン

アミモノ

ベンジョ

② マーシャル諸島と日本はいつごろからつながりがあったのでしょうか？ 次の出来事はいつごろのことだと思いますか？ 4つの時期を線で結びましょう。

A マーシャル諸島から日本へ椰子の木の実の輸入が始まった

B 日本からマーシャル諸島へ経済援助が始まった

C マーシャル諸島へ行政官の移住が始まった

D マーシャル諸島へ民間人の移民が最盛期を迎えた

明治中期

大正11年  
(1922年)頃

昭和15年  
(1940年)頃

平成15年

③ マーシャル諸島と日本の歴史(→P.18)を聞いて、今後2つの国はどんな関係を築いていったらいいと思いますか？ また、その関係をつくるために、日本はどんなことをしたらいいと思いますか？ 話し合ってみましょう。



P.17のこたえと解説です。



マーシャル諸島と日本の歴史を知り、  
これからの関係を考えよう。

- ① **チャンポ**:散歩。日本語では、歩いて近所を散策することですが、マーシャルでは、ドライブやピクニックなども含みます。近所の友人や親せきを訪ねてお茶をすることも「チャンポ」と言います。  
**ニカイ**:2階建て以上の建物のことです。  
**ピトン**:布団のことです。  
**アミノノ**:日本語の編み物は毛糸で編んだセーターや帽子などですが、マーシャル語では、ココヤシやタコノキの葉っぱで編んだ工芸品です。マーシャル諸島の人でも使いますし、お土産用としても売られています。  
**サシミ**:日本のように薄く切るものはあまりありません。マグロをさいの目に切って、レモンやマヨネーズでいただきます。  
**デンキ**:懐中電灯のこと。部屋の電気などはライトと言います。日本統治時代、部屋の電気はなかったのです。  
**ジメン**:グラウンドや広い場所のことです。  
**ベンジョ**:トイレのことです。
- ② **A** 明治中期 **C** 大正11年(1922年)頃 **D** 昭和15年(1940年)頃 **B** 平成15年

## マーシャルと日本の悲しい歴史

マーシャル諸島と日本とのつながりは明治中期にさかのぼります。当時、マーシャル諸島の椰子の木の実を求めて日本の貿易商がマーシャル諸島に買い付けに行ったのです。

そして1914年、日本はマーシャル諸島を支配し始めました。この年、第一次世界大戦が勃発したことで、日本はドイツに宣戦布告しました。そして同時に、太平洋にあるドイツ領のうち北にあるミクロネシア地域を軍事占領したのです。第一次世界大戦が終わるとミクロネシア地域は、正式に国際連盟の委任統治領となり、日本は「受任国」となりました。つまり、日本がミクロネシアを正式に統治することを国際社会から認められたということになります。この地域を「南洋群島」と呼び、30年間という長い間支配を続けました。この地域の東部に位置していたのがマーシャル諸島なのです。

## 支配するということ、支配されるということ

日本はミクロネシア各地で教育を重視しました。現地の子どもたちのために「公学校」をつくりました。義務教育は3年間の本科だけでしたが、優秀な成績を修めると2年間の補習科に進むことができたのです。ミクロネシア全体では26校、うち、マーシャル諸島には、4つの公学校が作られました。マーシャル諸島は環礁が点在しており、それぞれの距離が数百キロも離れているため、多くの子どもたちにとって、地元から学校に通うことは不可能です。そこで、現地の子どもたちのための寄宿舎も作られました。ここでは給食も提供され、幼い子どもたちは親元を離れて勉学に励みました。これだけ聞けば悪いことではありませんが…。

ところで、マーシャル諸島のお年寄りには日本語を話します。「アリガトウ」「イチ、ニイ、サン、シイ」「コンニチハ」…。これは、公学校で日本語教育が重視されたからです。算術(算数)、図画、家事、体育、修身(道徳)などの科目がありました。授業時間の半分が国語(日本語)に当てられていたのです。

日本が統治していた時代、多くの日本人がマーシャル諸島に移住しました。例えば1929年には、10,131人しかいない地域に549人も日本人が住んでいました。これらの人々の多くは一般民間人、ほとんどが貿易商、商店経営などの仕事に就いていました。そして子どもたちは公学校ではなく、原則的には日本人学校に通学しました。日本の植民地統治政府は、現地の人びとと日本人の地位をはっきりと区別したのです。

日本は「南洋庁」という植民地政府を設置して「南洋群島」全体を統治しました。マーシャル人もここで働いていましたが、給与は日本人の3分の1程度でした。さらに、マーシャル諸島にヤルト支庁を置いて人びとを厳しく管理しました。通りの掃除をさせたり、トイレを作らせたり、服装をきちんとさせたり。職場でちゃんと働かなかったり、通りの掃除をしなかつたりすると、日本人行政官からの厳しい叱責が待っていました。時には殴られることもありました。現在マーシャル諸島には「バカヤロウ」や「コノヤロウ」という言葉が残っていますが、これは当時の日本人がマーシャル人に対して使っていたことが想像できます。

## 第二次世界大戦、そして現在

日本はハワイのパールハーバーのアメリカ軍を攻撃して、第二次世界大戦に参戦しましたが、マーシャル諸島も日本とアメリカの激戦地となりました。アメリカ軍は、日本軍を直接攻撃するよりも、むしろ日本とマーシャル諸島間の食糧・燃料などの輸送ルートを決つという作戦を採りました。追い詰められた日本兵はマーシャル人に食料供出やスパイ活動をさせるなど、のちのちまで現地住民の間にしこりを残すようなやり方で戦争を進めたのです。

第二次世界大戦で日本は敗れ、アメリカがマーシャル諸島を含むミクロネシアを統治しました。この間日本とマーシャル諸島とのつながりはほとんどありませんでしたが、1986年にマーシャル諸島が独立するとまたつながりが生まれてきました。平成にはいい、日本の政府開発援助(ODA)で道路、魚市場、体育館の建設が行われました。

# 違うところと同じところ

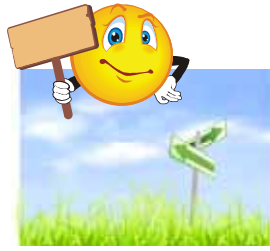
① マーシャル諸島と日本、似てる? 似てない?

次のカードは、マーシャル諸島について書かれたものですが、これはホント? それともウソ?  
また、日本ではどうでしょう? 日本ならこれはホント? それともウソ?

① 土地は貴重なので、土地の値段はとても高い。



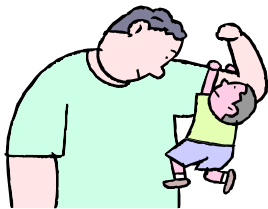
② 土地には名前がついている。



③ 土地はすべて国のものである。



④ 子どもから見て、一番偉いのは、父親だ。



⑤ もともと苗字を名乗る習慣がなかった。



⑥ お父さんとお母さんが離婚すると、お父さんは手荷物一つで家を出ていく。



⑦ 都市部には居候をしている人がとても多い。



⑧ 海外移住している家族が多い。



⑨ マーシャル諸島でも、コープとは生活協同組合である。





- 1 **×ウソ** 土地は、すべて親族が共同で管理しています。だから売買の対象にはなりません。国有地はありません。
- 2 **ホント** 「ネズミの家」とか「よりかかっている所」とか「鮫の棲家」など、面白い名前が付いています。日本でも日之出町とか、青木町など土地に名前が付いていますが、よく似ています。このような名前の付いた土地を親族で共同で所有し、管理しているのです。
- 3 **×ウソ** マーシャル諸島の土地は隅から隅まで、親族の所有になっています。だから、国が国の建物を建てる時には、親族集団から土地を借りる事になります。道路も空港も郵便局の敷地もすべて、親族集団からリースしているのです。
- 4 **×ウソ** マーシャル諸島は母系社会です。だから子どもは母親の親族集団に所属することになります。自分が所属する親族集団の中で一番偉いのは、母方の叔父さんです。母方の叔父さんの言う事は絶対で、逆らえません。
- 5 **ホント** もともと、マーシャル諸島には名前しかなく、苗字というものはありませんでした。アメリカ信託統治領政府は、それでは不便だということで、父親の名前を苗字として使うように指導したのです。それ以降は、アメリカの習慣と同じように結婚によって、女性は男性の苗字を使うようになりました。
- 6 **ホント** 母系制のために財産は女性が握っています。お母さんの方に原因があつたとしても、黙って出て行くしかなかったのです。しかし近年では男女同権という意見も表れ、女性が出て行く場合も見られるようになりました。
- 7 **ホント** 都市部には、家の所有者以外にも、夫や妻の兄弟姉妹が居候しています。就労や就業するために、数ヶ月から数年単位で居候しているのです。中には居候先で結婚しそのまま居座り続ける人もいます。
- 8 **ホント** マーシャル諸島には産業があまり発達しておらず、働く場所がありません。そこで、海外に働く場所を求めて移住しています。そしてマーシャル諸島の家族や親族に送金するのです。ただし、家族で移住し、親族の子どもたちを居候させている人もいます。彼らは、海外の小学校、高校、大学などを卒業してマーシャル諸島でよい職を得ようとしているのです。
- 9 **×ウソ** マーシャル諸島でコープと呼ばれるのは、親族一同が出資して共同経営している店です。マーシャル諸島にはそうした店が多く見られます。ただ、現地では信用売りの習慣があり、その回収がうまくいかずに、廃業や休業に追い込まれているコープも見られます。みんな顔見知りの親族が経営する難しさがあるようです。



コープの店舗。親族を代表して女性が切り盛りしている。

中原聖乃

## 父系制と母系制

日本では、多くの場合、お父さん方のおじいさんやおばあさんの姓と同じ人が多いでしょう。これは、日本人が結婚するときには、女性が男性の姓を名乗る事が習慣となっているからです。もちろん、現在では法律によって結婚するときには、夫、妻どちらの姓を名乗ってもいい事になっています。特に夫の姓を名乗ることは強制されていません。しかし、日本では習慣的に夫の姓を名乗る事、つまり夫の戸籍に妻が入ることが多くなっています。だからお墓も夫の家族の墓に入る事が多いでしょう。こうした社会を父系制といいます。

さて、マーシャル諸島ではどうでしょうか。マーシャル諸島は母系制なのです。母親の親族集団の範囲に子どもたちが入る事になります。マーシャル諸島は母親と子どものつながりが重視される社会なのです。



# フォトギャラリー

## ～マーシャルの人々の日常～



首都の一般的な家庭の台所。電気調理器具、電気ポット、電気炊飯器もある。



離島のお茶の時間。家の軒先に大きなテーブルを置いている。近所のお茶飲み仲間が集まる。やかんに大量のお湯を沸かして、何人きてもいいように紅茶を用意している。食べ物はドーナツにマヨネーズをつけて食べる。



イバイの一般住宅。生活物資も少なく、充分な水も供給されていない。それでもきちんとかたづけられた家の内部。



首都マジュロの一般的な家庭のリビング。テレビも、パソコンも、クーラーもある。



マーシャル諸島の多くの地域では伝統的な踊りや歌はほとんど残っていない。代わりに人びとは新しい「伝統」を作り出している。写真は、約70年前に作られたと言われる「太鼓ダンス」を再び蘇らせようとする女性。



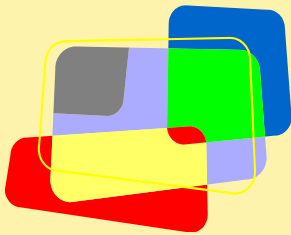
ブラボー被災50周年記念式典。多くの人がデモ行進をした。プロジェクト4.1という旗を持っているが、これはアメリカ政府が、核実験に伴って行った放射能の人体への影響調査の名称。





## 第3章

一緒に考えよう！こんな課題



# 放射能汚染と核実験補償金

## ～マーシャル諸島が背負った苦悩～



美しい風景には、悲しい歴史があります。そして、その苦悩は今も続いているのです。

1 つぎの写真は、何を写したものでしょう?



ウィキペディア

2 上の写真は、マーシャル諸島で行われた核実験の写真でした。では、核実験に関する次の3つの文章のうちから正しいものを選びましょう。

A たしかに核実験は行われたが、マーシャル諸島で核兵器の被害はない。核兵器の被害があったのは、世界で日本だけである。

B マーシャル諸島で核実験を行ったのは、日本である。

C 核実験により放射能は出るが、その後環境への影響はない。

3 何度も行われた核実験は、マーシャル諸島の人々にたいへんな苦難を強いることになりました。そして、それは日本にとっても無関係なことではなかったのです。核実験に関する資料(→P.29)を読んで感想を話し合しましょう。

4 さらに、核実験は、マーシャル諸島に新たな葛藤をもたらしています。さて、みなさんだったら、どうしますか??

マーシャル諸島の産業は、ココヤシから生まれるコプラだけ。資源もなく、経済的に豊かな国ではありません。

国土も少なく人材も育っていないため、産業を発展させるのは難しい状況です。

失業率は30%以上。その中で、ミサイル実験を行うための基地は、マーシャル諸島に多くの雇用をうみだしています。



各国から経済援助を受けており、それがなければ、国として成り立っていきません。

特に、アメリカは、現在も、マーシャル諸島でミサイル実験を行っているので、多額の経済援助をしています。さらに、過去の核実験でマーシャル諸島には被害を与えているので、核実験補償金も支払っています。

核実験補償金を受けている人々は、働いていたころよりも多くの収入を得ています。



P.23のこたえと解説です。



マーシャル諸島の事例から、国際社会の中での国のあり方を考えてみましょう。

- ① 1954年、ビキニ環礁で行われた核実験ブラボーによるキノコ雲
- ② 3つとも正しくありません。
  - A マーシャル諸島で行われた核実験は、広島、長崎に落とされた核兵器と同じです。
  - B マーシャル諸島で核実験を行ったのは、アメリカです。
  - C 核実験は、放射能によってその後も環境への影響が続きます。

## なぜ、マーシャル諸島で核実験？

マーシャル諸島という国で、なぜアメリカは核実験ができたのでしょうか。第二次世界大戦以前、マーシャル諸島は日本が統治をしていました。第二次世界大戦で日本がアメリカに負けたために、マーシャル諸島はアメリカに軍事的に支配されることになりました。アメリカはすでに広島と長崎に核爆弾（原爆）を投下しましたが、さらに性能を高めるために核爆弾を爆発させる「核実験」が必要だったのです。ところが、核実験は放射能という人体に危険な物質を放出します。そこで、アメリカは核実験を自国ではなく、別の場所で行うことを検討し始めました。ちょうどアメリカがマーシャル諸島を軍事的に占領したばかりで、マーシャル諸島に白羽の矢が立てられたのです。

さらに、理由はもう一つあります。マーシャル諸島は環礁からできていますが、内海のラグーンは、水深が深くても数十メートルととても浅いのです。ここで核実験を行うと、核爆弾の破片などの残骸を簡単に回収できるので、まずビキニ環礁が核実験場として選ばれたのです。その他の理由としては、人口が少なかったこと。そしてアメリカ、ハワイ、日本、オーストラリアなどの人口集中地から離れていたことです。



1946年7月に行われた核実験で発生した水柱

ウィキペディア

## 海外からの経済援助の影

マーシャル諸島の主な海外輸出品は、ココヤシの実を乾燥させて作るコプラ（→P.29）です。コプラ以外には、国際的に競争力のある産業は育っていないのが現状です。もちろん、石油、ガスなどのエネルギー資源や近年価格の上昇したレアメタルなどの資源はありません。そのために、国民総生産（GDP）は低く、見掛け上、「貧しい国」になっているのです。

そこで、マーシャル諸島では海外から経済援助を受けています。そうしないと国家財政が成り立たないのです。日本や台湾も政府開発援助をマーシャル諸島に提供していますが、多くはアメリカからの経済援助です。マーシャル諸島は1986年までアメリカによる信託統治領として統治されていましたが、独立にあたって、アメリカから経済援助を受けるという条件で独立をしたのです。この経済援助は、独立前にアメリカがマーシャル諸島に建設した軍事基地を独立後も引き続き使用するための見返りとしての意味があります。独立と同時にアメリカとマーシャル諸島の間で締結された自由連合協定という条約の中に、支払い額から支払い時期まできちんと定められているのです。

またアメリカは、信託統治領時代にマーシャル諸島で行った核実験の被害に対する補償金の支払いも行いました。これも自由連合協定の中に明記されています。この核実験補償金の一部は生活補償金として被害を受けた個人個人に分配されています。

このようにマーシャル諸島は独立した今でも、アメリカを中心として海外からの経済援助や核実験補償金なしにはやっていけない国家になっています。その額は国家財政の約半分を占めています。

しかも、こうしてはいつてきたお金は、産業の育成に使われるよりも、むしろ国家機能を大きくして、国家公務員をたくさん雇い、給料を払うことで、手取り早く人々の所得が増えるようにしたのです。国家公務員給料や、個人に分配された補償金を元手として、人びとは海外移住をするようになりました。こうして更に現金獲得の機会を増やしていったのです。この海外移住した親戚の家に居候として親戚の子ども達に移住するようになりました。この子ども達は海外で小学校や高校、大学へと進学し、マーシャル諸島に帰って有利な仕事に就こうとしているのです。

一方で、経済援助や核実験補償金などにより、マーシャル諸島の伝統的な暮らしは崩れ、自然環境も壊しつつあるのです。（→P.28）

# やめて！沈んじゃう！！

① ？ 自分の国が沈んじゃう...って言われたらどうする？

① もしも、「日本は10年後、海に沈んじゃいます。」って言われたら、あなたならどうしますか？  
そのとき、学校はどうしますか？ 家族は？ 友達は？

② そんな状況になったとき、どんな気持ちになりますか？  
グループで話し合ってみましょう。

③ 実は、世界には海面上昇により国土が沈む危機にある国がたくさんあるのです。  
マーシャル諸島もそのひとつ。平均海拔が2メートルしかないマーシャル諸島は、海面が上昇すれば、海に沈んでしまいます。また、マーシャル諸島以外に、次の国もこのままでは沈んでしまうと言われていています。  
世界地図で位置を確認して色を塗ってみましょう。  
色を塗った地図を見て、どんな感想を持ちましたか？

マーシャル諸島、キリバス、サモア、フィリピン、パラオ、バヌアツ、ハワイ、フィジー、ツバル、  
バングラデシュ、ベトナム、タイ、モルディブ、オランダ、ドイツ北部、デンマーク、エジプト、  
米国のメキシコ湾沿岸部、米アラスカ州シシュマレフベールリング海沿岸部



④ 海面上昇の原因の一つは、先進国が排出する温室効果ガスによる「地球温暖化」であると言われていています。  
そして、マーシャル諸島の人々は、温室効果ガスをほとんど排出していないのです。  
さて、この事実、みなさんはどう思いますか？

⑤ 「地球温暖化」は海面上昇以外にも、私たちの生活にさまざまな影響を及ぼします。  
「地球温暖化」について知っていることを、みんなで出し合ってみましょう。

⑥ では、「地球温暖化」を食い止めるために、どんなことができると思いますか？  
みなさんは何をしますか？



## 地球温暖化と海面上昇

いま地球はどんどん暖かくなっています。なぜなのでしょう。それはガス、石油、石炭、木材などを燃やすことによって二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスが出てきますが、これが地球の上空を覆って幕のようになってしまい、太陽から地面に届いた熱が逃げにくくなってしまったからなのです。そうすると困った問題がおきます。温度が上がることによって海水が膨張して海面が上昇するのです。そうすると標高の低いところは海に沈んでしまいます。特に膨張率の高い赤道付近は大きな影響を受けてしまうのです。

特に、熱帯、亜熱帯の島嶼国は、標高の低い土地が多いのに加えて経済的に貧しい人々が多く、もっとも深刻な影響を受けやすいと考えられています。海面の上昇によって、沿岸侵食の拡大、土地や財産の損失、人々の移住、高潮のリスクの増大、沿岸の自然生態系の減衰、淡水資源への塩水(海水)の浸入が起これ、これらの変化に対処するため高いコストが生じてしまいます。また、観光は多くの島にとって収入及び外貨獲得の重要な源ですが、異常気象の増加などや海面水位の上昇から深刻な観光資源の損失に見舞われます。

そして、これらの国々や地域の多くは、地球温暖化の原因となる温室効果ガスをほとんど排出していないのです。

## マーシャル諸島の不安

マーシャル諸島共和国の平均海拔は約2mです。そのため、地球温暖化によって海面が上昇すると、被害が拡大することが懸念されています。「IPCC(気候変動に関する政府間パネル)」によると、「海面が1m上昇した場合、マーシャル諸島共和国マジュロ環礁の80%が失われる。」としています。

マーシャル諸島のCO<sub>2</sub>排出量はほぼゼロ。それなのに、本当に国が沈んでしまったら、マーシャル国民は住む場所を失い、他の国で生活をしなければいけない環境難民となってしまいます。



海面上昇により砂浜が浸食され、いたるところにヤシの木が倒れています。



全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト  
(<http://www.jccca.org/>)

## 温暖化をストップさせるためにできること

地球温暖化が進むと、海面上昇以外に、生物の絶滅、マラリアなど熱帯性感染症の発生範囲の広がり、洪水や高潮の多発、病害虫の増加による深刻な食糧難などが起こります。

地球温暖化をストップさせるためには、温室効果ガスの排出を減らさなければいけません。しかし、世界のエネルギー消費量は、1965年から現在までの間に2倍になっています。クーラー、パソコン、ビデオ、テレビゲーム、携帯電話、電子レンジなど、さまざまな電化製品を使って暮らすようになったからです。私たちの暮らしが便利になればなるほど、たくさんのエネルギーが必要になり、たくさんの温室効果ガスを排出してしまうのです。そんな温室効果ガスを減らすには、わたしたち一人ひとりが生活を見直し、地球温暖化対策に取り組まなければいけません。例えば、

- 冷房や暖房の温度設定を見直す
- できるだけ自動車を使わない
- シャワーや水道の水をこまめに止める
- 電気をつけっぱなしにしない
- テレビを見たりコンピュータを使う時間を減らす
- など

# どちらが豊かなのかな？

① 豊かな暮らしってどんな暮らしなのでしょう？ 何があれば、豊かな暮らしを送ることができるのでしょうか？

1 あなたはどちらの暮らしが豊かだと思いますか？ それはなぜですか？

A

お金がたっぷりあり、望めばなんでも買える。



親戚や友人がたくさんいて、地元のものを利用して、助け合いながら暮らす。



B

24時間営業のコンビニがあって、いつでも商品を買うことができる。



自給自足の生活。必要なものは、自分たちで作る。



C

コミュニケーションの手段は、携帯電話やインターネット。いつでもどんな情報でも手に入れられる。



みんなが知りあい。お互いによく知っている。何かがあると、みんなが集まってくれる。



D

手軽なファストフード。便利でおいしいけれど、ゴミの処理にはちょっと困る。



地元の食品を無駄が出ないようにできるだけ活用して、おいしい季節にいただく。



2 グループでみんなの考えを共有し、それを踏まえて「豊かな暮らし」とはどんな暮らしなのか模造紙に描き出してみよう。

3 では、日本は豊かですか？ 豊かではないですか？ マーシャル諸島は豊かですか？ 豊かではないですか？ みんなで自由に話し合ってみよう。



マーシャル諸島の、国民総生産はとても低いのです。世界銀行の試算によれば、マーシャル諸島は世界190カ国のうちの180位で、国民一人あたりに換算すると112位です。しかし、国民総生産は本当に国の貧しさを表すのでしょうか？

## 変わっていくマーシャル諸島の暮らし ~ お金もたらしたモノ ~

そもそも、マーシャル諸島は、タコノキ、パンノキ、ココヤシ、タロイモなど、ほとんど手入れをしなくても育つ植物を利用して生活してきました。実が食料になることはもちろん、幹は家屋の柱となったり、カヌーになったりもします。そして葉は家屋の壁や屋根になり、ココヤシの実を運ぶバスケットになったり、食事の時のお皿になったりもします。このような陸地の資源は、個人や世帯単位で管理されるものではありません。土地は親族単位で所有、管理され、その土地に生えている植物も共同管理されたのです。だから、個人が勝手に土地を売却することも不可能だったのです。

海の資源は環礁の中にある一つの小島ごとに管理されました。男達が共同で漁を行い、一カ所で魚や貝を取りすぎないように常に話し合いながら漁が行われました。だから、取りすぎて無くなるという事は無かったのです。このように生きていく為の糧は、親族単位で、あるいは島単位で住民の話し合いの元で行われました。

ところが、現在では海外から経済援助や核実験補償金が入ってきます。もともと豊かに暮らせるところだったので、人びとは海外からもたらされた「金」の恵みを、主に余暇に使うようになりました。ビデオ、車、クーラー、ファーストフード、ラーメン、ハンバーガー、コーラ、お酒などに使いました。そして大勢が集まるパーティでは、椰子の木の葉っぱのお皿が、プラスチックのお皿にかわり、ココヤシのジュースが、プラスチックのコップに注がれるファンタに変わったのです。以前は、皆が木陰でお茶を飲み、おしゃべりをしていた昼下がりには、クーラーの効いた家の中でビデオを見る人が現れてきました。

以前は日本にも、これと同じような共有地(入会地)がたくさんありました。しかし、明治にはいって少しずつ土地の私有化が進められていきました。そして、私有化した土地は工場、ダム、産業廃棄物処理場、別荘地となったところもあります。生活のための「場所」が経済的利益を生み出す「土地」になってしまったのです。


さて、マーシャル諸島に話を戻します。この結果、多くのゴミが出てくるようになりました。プラスチックのお皿、コップ、フォーク、スプーン、故障したテレビ、車、冷蔵庫……こうしたものが、ゴミとしてサンゴ礁の美しい海に捨てられるようになり、次第にとれる魚や貝が減っていきました。

核実験に反対して、そしてアメリカの統治の仕方に反対して、その謝罪として獲得した補償金や経済援助は、今やマーシャル諸島の人びとへ生活の恵みをもたらしてきた自然環境を壊そうとしているのです。今度は知らず知らずのうちに、自分たち自身が破壊してしまっているのです。そしてそれは、自然環境だけではありません。栄養の偏りや過度の飲酒が原因で、糖尿病を発症してしまう人が多くみられ、今や国民病となっているのです。

お金は、本当に「豊かさ」をもたらすのでしょうか。



ゴミ捨て場になったサンゴ礁

 中原聖乃

## 「チバン」という生活習慣

マーシャル語には「チバン」という言葉があります。日本語にすると「助ける」という意味になります。この言葉は文字通り、重いものを持っている人がいるときに、「荷物を持つのを助けてあげる」という使い方をします。そのほか、小銭を持っていない人に小銭を貸すのも「チバン」。島の中で、売店を経営するのも、島の人のためということで「チバン」。夜中に腹痛を起こした隣人を自家用車に乗せて、病院に連れていくのも「チバン」。マーシャル諸島の人々は「マーシャルではいつでも『チバン』って言うから。」と言います。

日本では、たとえば夜中に具合が悪くなると、隣人をたたき起して病院に行こうとは思わないでしょう。相手に悪いと考えるのが日本人の考え方です。でも、マーシャル諸島では自分の要求は正直に相手に伝える。でも相手の要求も受け入れる、という社会です。

マーシャル諸島の人々は、島の中でとれる食料も決して独り占めをしたりしません。大きなパンノキを持っている世帯では、隣近所の住人や親せきに分け与えます。時には、隣近所の主婦が2~3人、収穫させてもらいに来ることもあります。

マーシャル諸島の人々は、このような助け合う「チバン」という習慣があるために、マーシャルにはホームレスはいないと自慢します。みんなが助け合う習慣をマーシャル諸島の大切な習慣と考えているのです。



## ちょっとブレイク



### 核実験の悲劇

1946年から1958年まで、アメリカはマーシャル諸島で67回の核実験を行いました。ビキニ環礁、エニウェトク環礁に住んでいた人びとを強制的に他の場所に移住させて実験が行われたのです。また、1954年には、通常の核爆弾よりもさらに威力の大きい水爆実験「ブラボー」が行われました。この水爆実験が行われたのはビキニ環礁なのですが、その200キロメートル東にあるロンゲラップ環礁には人びとがいました。『「太陽がもう1つ昇ってきた」かのように、西側の空一面が光でおおわれ、島中に爆音がとどろいた。昼ごろから「白い粉」が降り、(中略)一面雪景色となった』と後に報告されています。核爆弾が爆発するときには、放射能という人体に有害な物質が放出されますが、「白い粉」とは放射性降下物、いわゆる「死の灰」なのです。生活の場にその放射能が降り注ぎ、ロンゲラップ環礁全域が汚染され、住民は被爆してしまったのです。その当時、住民には「死の灰」という認識がなく、「死の灰」をなめた人やそれで遊んだ子どももいたそうです。そうした被爆者たちは、現在まで白血病や癌といった放射能が原因と考えられる病に苦しんでいるのです。

また、爆心地から160km離れた海域でマグロ漁をしていた日本の第五福竜丸も「ブラボー」実験に遭遇し、「死の灰」を浴びてしまいました。乗組員の1人が半年後に亡くなったことで、世界中に衝撃が走りました。

その後、エニウェトク環礁はなんとか放射能を除去して人々が住むことができますが、ビキニ環礁とロンゲラップ環礁には現在も人は暮らしていません。もちろんこの3つの地域では地元で取れる魚やヤシノキの実などを食べる量に制限があります。

### マーシャル諸島の暮らしに欠かせないココヤシ

ココヤシは、様ざまなものに利用されます。ココヤシの中身には脂肪分たっぷりの白い果肉が入っていて、この果肉を取り出して天日で乾燥させると、コブラといわれるものになります。このコブラからは良質のココナッツオイルが採れ、石けん、マーガリンなどが作られました。

西洋の貿易船がマーシャル諸島に立ち寄り始めた頃、西洋社会は産業革命の真っ只中でした。そしてその中で発明された、常温で油を固形化する技術革新でマーガリンと石けんが大量生産されるようになりました。当初は、魚から取れる油を使っていましたが、生臭いので、ココヤシオイルに注目が集まったのです。こうしてココヤシの生い茂るマーシャル諸島が注目され始めたのです。19世紀後半のことでした。

現在でもココナッツオイルは、石けん、マーガリン、お菓子などに使うショートニングの材料として使われています。また、臭気を取り除く活性炭や風呂のマットなどにも使われています。

ココヤシの実も、もちろん様ざまに食されます。まだ幹から落下する前のココヤシの実もジュースとして大人から子どもまで飲みます。木に登って採ったり、専用の柄の長い鎌で切り取ったりします。ココヤシの実も、表面の繊維質の部分を地面に突き刺さった鉄の道具を使って取り除きます。そうすると、白く硬い内果皮が表れます。この芽の部分を切り取り、穴をほじるとそこからジュースを飲むことができます。栄養価が高い上に殻の中は無菌状態なので、戦時中には日本軍が点滴として利用したほどです。ジュースを飲んだあとの内果皮内側にもゼリー状のものが付いています。ナタデココのような触感です。

ココヤシの実が熟して落下したものは「ワイニー」といいます。ワイニーになるとジュースはおいしくないのでも飲みません。その代わりに、内果皮内側に1センチ程度の白い層ができ、これをナイフでこそげとって干し魚と一緒に食べたり、専用の削り器で細かくして、手で絞ればココナッツミルクとなります。これをお米、バナナやパンノキと一緒に調理したりします。

熟して落下した実は放っておくと自然に根と芽が出てきます。根付く前の実は「ユー」といいます。中には一滴の果汁もなくなっていて、内果皮の内側全体にふわふわしたスポンジ状の実が広がっています。これはそのまま食べたり、スープにしたりします。

また、花芽からはココナッツジュースとは一味違ったジュースが取れます。一日でコーラのビン1杯くらい取れます。それを水で薄めて飲みます。

このようにココヤシの実も熟し度によって味覚や利用法が変わります。それだけでなく、栄養素も異なるのです。だからそれほど多種類の野菜を食べなくても栄養不足にはならないのです。



ココナッツオイルをつくる



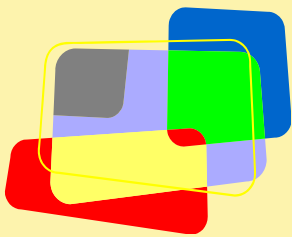
パーティの食事に添えられたココナッツジュース





## 第4章

そして未来へ



# 世界を変えるスピーチ



地球は今、様々な課題を抱えています。  
あなたが今、一番気になる課題は何ですか？

- 1 みなさんは、「グローバルイシュー（地球的課題）」ということばを聞いたことがありますか？  
原因が特定の地域だけでなく地球全体に関係している、深刻化すれば地球全体に影響がある、解決には地球全体の長期的な協力が必要である…そんな課題を「グローバルイシュー」と呼びます。  
具体的にどんな課題があると思いますか？ グループでできるだけたくさん模造紙に書き出してみましょう。
- 2 それぞれのグループが書き出した課題を発表し、みんなで共有しましょう。
- 3 今みんなで出し合った課題の中で、あなたが一番気になる課題は何ですか？  
グループで話し合っ、1つ選んでみましょう。  
また、その課題について世界はどういう状況なのか、日本はどういう状況なのか、調べてみましょう。
- 4 さて、グループで選んだ課題を解決するための会議が開催されることになり、5分間のスピーチをすることになりました。なぜその課題に関心があるのか、その課題についてどんなことを思っているのか、その課題を解決するためにどうすればいいと思うか…などを盛り込んで、スピーチの原稿をグループのみんなで作ってきましょう。
- 5 では、会議の会場を想定して、実際にスピーチをしてみましょう。
- 6 ここに、「伝説のスピーチ」と言われている12歳の少女のスピーチがあります。この少女は、カナダに住む日系4世のセヴァン・カリス＝スズキ。遊ぶことが大好きなふつうの女の子です。そのふつうの女の子が、世界中のおとなたちを感動させたスピーチです。聞いてみてください。(P.33～35)
- 7 スピーチをしてみてどうでしたか？  
他のグループのスピーチや「伝説のスピーチ」を聞いてどんなことを感じましたか？  
感想を話し合ってみましょう。

## グローバルイシュー (地球的課題) と持続可能な社会

「グローバルイシュー」には様々な課題が含まれますが、大きく「人権」と「環境」の2つに分けられます。例えば、1992年ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミットで採択された、21世紀に向けた持続可能な開発を実現するための行動計画『アジェンダ21』では、貧困、人口問題、健康と環境、人間居住、大気保全、森林減少、砂漠と干ばつ、生物多様性の保全などの課題をとりあげています。また、2000年の国連ミレニアム・サミットで採択されたミレニアム開発目標では、2015年までに達成すべき目標として下記の8つの項目を掲げ、189の加盟国が公約しました。

それらに掲げられているそれぞれの課題は、「貧困の問題が紛争につながる」「紛争がさらなる貧困を生みだす」「紛争は最大の環境破壊である」「環境が破壊されれば、ますます貧困になる」といったようにつながっており、原因にも結果にもなり得る悪循環をつくりだしています。さらに、地域における課題、たとえば「多文化共生」などの課題も地球の課題と共通する部分が多く、つきつめれば同じ原因で問題が起こっていたりします。

「持続可能な社会」とは、「持続可能な開発」、つまり、次世代のニーズを満たす可能性を損なわないで環境を利用し、現在の世代のニーズを満たす開発が行われる社会のことを言います。グローバルイシューを解決しない社会は、持続「不可能」な社会なのです。

## ミレニアム開発目標 (MDGs)

「今日われわれが直面する主たる課題は、グローバル化が世界のすべての人々にとって前向きな力となることを確保することである」とする国連ミレニアム宣言では、国際社会の支援を必要とする喫緊の課題に対する具体的な数値目標として、8の目標、21のターゲット、59の指標を掲げています。

### 貧困と飢餓をなくそう！ (極度の貧困と飢餓の撲滅)

地球上では、5人に1人が1日1ドル未満の所得で生活をし、7人に1人が慢性的な飢えに苦しんでいます。また、もっとも裕福な1%の人々が、もっとも貧しい157%の人々と同じだけの所得を得ています。所得貧困により、十分な栄養を得られない、適切な教育や保健医療を受けられない、安定した職を得られないという困難に多くの人が苦しんでいるのです。

### 小学校に通えるようにしましょう！ (普遍的初等教育の達成)

1億1,500万人の子どもが学校に通っておらず、多くは南アジアとサハラ以南アフリカに住んでいます。途上国では5人に1人が学校に通っていないことになり、その5分の3は女の子です。また、世界中の成人のうち6人に1人が読み書きできません。その数は、8億7,600万人で、その3分の2は女性です。

### 男女の差をなくそう！ (ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上)

教育を受けていない母親から生まれた子どもは、教育を受けている母親から生まれた子どもに比べ、栄養不良や5歳未満で死亡する割合が2倍になるというデータがあります。また、教育を受けた母親の子どもの就学率も高くなっています。

### 赤ちゃんを守ろう！ (乳幼児死亡率の削減)

2002年、1,000人の子どものうち5歳未満で亡くなった子どもの数は、先進国では7人、南アジアでは97人、サハラ以南のアフリカでは174人に上ります。その背景には、貧困による不十分な食糧、不衛生な水、不公平な医療サービスが挙げられるほか、紛争や災害などで抵抗力の弱い子どもたちが犠牲となっているのです。

### お母さんを守ろう！ (妊産婦の健康の改善)

51万5,000件に上る妊産婦の死亡の99%は途上国で起こっています。先進国では、2,900人に1人の妊産婦死亡率がサハラ以南アフリカでは13人に1人です。

### 病気をふせごう！ (HIV / エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止)

HIV感染者の90%以上が途上国の人で、サハラ以南アフリカは感染者全体の70%を占めています。毎年5億人がマラリアに感染し、100万人以上が死亡しています。このうち90%はサハラ以南アフリカに住んでいます。

### くらしを良くしよう！ (環境の持続可能性の確保)

世界の森林は、2000年までの10年間で日本の国土面積の2.5倍にあたる約9,400万ヘクタールが減少しました。そのうちの96%がアフリカと南米の熱帯林です。エネルギーの消費量は、世界の上位10カ国が全体の65%を占めており、そのほとんどが先進国です。世界の10億人以上が安全な水を利用できずにいます。下水道などの基本的な衛生施設を利用できない人は26億人にのぼります。

### 世界のみんで助け合おう！ (開発のためのグローバル・パートナーシップの推進)

ミレニアム開発目標の達成には世界的な協力体制の下での取り組みが必要です。もはや開発は、国連や政府やNGOだけが取り組むものではありません。世界中の人々が協力しなければいけないのです。



# この星をこれ以上こわし続けないで

～ 12歳の少女が地球サミットで語った伝説のスピーチ～

こんにちは、セヴァン・スズキです。エコを代表してお話します。

エコというのは、子ども環境運動(エンヴァイロンメンタル・チルドレンズ・オーガニゼーション)の略です。

カナダの12歳から13歳の子どもたちの集まりで、今の世界を変えるためにがんばっています。

あなたたち大人のみなさんにも、ぜひ生き方を変えていただくようお願いするために、

自分たちで費用をためて、カナダからブラジルまで1万キロの旅をしてきました。

今日の私の話には、ウラもオモテもありません。

なぜって、私が環境運動をしているのは、私自身の未来のため。

自分の未来を失うことは、選挙で負けたり、株で損したりするのとはわけが違いますから。

私がここに立って話をしているのは、未来に生きる子どもたちのためです。

世界中の飢えに苦しむ子どもたちのためです。

そして、もう行くところもなく、死に絶えようとしている無数の動物たちのためです。

太陽のもとにでるのが、私はこわい。オゾン層に穴があいたから。

呼吸をすることさえこわい。空気にどんな毒が入っているかもしれないから。

父とよくバンクーバーで釣りをしたものです。数年前に、体中がんでおかされた魚に出会うまで。

そして今、動物や植物たちが毎日のように絶滅していくのを、私たちは耳にします。

それらは、もう永遠にもどってはこないんです。

私の世代には、夢があります。

いつか野生の動物たちの群れや、たくさんの鳥や蝶が舞うジャングルを見ることです。

でも、私の子どもたちの世代は、もうそんな夢をもつこともできなくなるのではないかと

あなたたちは、私ぐらいの歳のときに、そんなことを心配したことがありますか。

こんな大変なことが、ものすごいいきおいで起こっているのに、私たち人間ときたら、

まるでまだまだ余裕があるようなのきな顔をしています。

まだ子どもの私には、この危機を救うのに、何をしたらいいのかはつきりわかりません。

でも、あなたたち大人にも知ってほしいんです。あなたたちもよい解決法なんて、もっていないってことを。

オゾン層にあいた穴をどうやってふさぐのか、あなたは知らないでしょう。

死んだ川にどうやってサケを呼びもどすのか、あなたは知らないでしょう。

絶滅した動物をどうやって生きかえらせるのか、あなたは知らないでしょう。

そして、今や砂漠となってしまった場所にどうやって森をよみがえらせるのか、あなたは知らないでしょう。

どうやって直すのかわからないものをこわしつづけるのは、もうやめてください。

ここでは、あなたたちは政府とか企業とか団体とかの代表でしょう。

あるいは、報道関係者か政治家かもしれない。

でもほんとうは、あなたたちも、だれかの母親であり、父親であり、姉妹であり、兄弟であり、おばであり、

おじなんです。そして、あなたたちのだれもが、だれかの子どもなんです。

私はまだ子どもですが、ここにいる私たちみんなが同じ大きな家族の一員であることを知っています。  
そうです。50億人以上の人間からなる大家族。  
いいえ、じつは3千万種類の生物からなる大家族です。  
国境や各国の政府がどんなに私たちを分けへだてようとしても、このことは変えようがありません。  
私は子どもですが、みんながこの大家族の一員であり、ひとつの目標に向けて心をひとつにして  
行動しなければならないことを知っています。

私は怒っています。  
でも、自分を見失ってはいません。  
私はこわい。  
でも、自分の気持ちを世界中に伝えることを、私はおそれません。

私の国でのむだづかいはたいへんなものです。  
買っては捨て、また買っては捨てています。  
それでも物を浪費しつづける北の国々は、南の国々と富をわかちあおうとはしません。  
物がありあまっているのに、私たちは自分の富を、そのほんの少しでも手ばなすのがこわいんです。  
カナダの私たちは、十分な食べものと水と住まいを持つめぐまれた生活をしています。  
時計、自転車、コンピュータ、テレビ、私たちの持っているものを数えあげたら何日もかかることでしょう。

2日前ここブラジルで、家のないストリートチルドレンと出会い、私たちはショックを受けました。  
ひとりの子どもが私たちにこう言いました。  
「ぼくが金持ちだったらなあ。もしそうなら、家のない子すべてに、食べものと、着るものと、薬と、住む場所と、  
やさしさと愛情をあげるのに。」  
家もなにもないひとりの子どもが、わかちあうことを考えているというのに、  
すべてを持っている私たちがこんなに欲が深いのは、いったいどうしてなのでしょう。  
これらのめぐまれない子どもたちが、私と同じぐらいの歳だということが、私の頭をはなれません。  
どこに生れついたかによって、こんなにも人生がちがってしまう。  
私がリオの貧民街に住む子どものひとりだったかもしれないんです。  
ソマリアの飢えた子どもだったかも、中東の戦争で犠牲になるか、  
インドで物乞いしていたかもしれないんです。

もし、戦争のために使われているお金をぜんぶ、貧しさと環境問題を解決するために使えば、  
この地球はすばらしい星になるでしょう。  
私はまだ子どもだけど、そのことを知っています。  
学校で、いや、幼稚園でさえ、あなたたち大人は私たち子どもに、世の中でどうふるまうかを教えてくれます。  
たとえば、  
争いをしないこと  
話し合いで解決すること  
他人を尊重すること  
ちらかしたら自分でかたづけること  
ほかの生き物をむやみに傷つけないこと  
わかちあうこと  
そして欲ばらないこと

ならばなぜ、あなたたちは、私たちにするなということをしているんですか。


なぜあなたたちが今、こうした会議に出席しているのか、どうか忘れないでください。  
そしていっただれのためにやっているのか。  
それはあなたたちの子ども、つまり私たちのためです。  
みなさんはこうした会議で、私たちがどんな世界に育ち、生きていくのかを決めているんです。

親たちはよく「だいじょうぶ。すべてうまくいくよ」という子どもたちをなぐさめるものです。  
あるいは、「できるだけことはしてるから」とか、「この世の終わりじゃあるまいし」とか。  
しかし大人たちは、もうこんななぐさめの言葉さえつかうことができなくなっているようです。

おききしますが、  
私たち子どもの未来を真剣に考えたことがありますか。  
父はいつも私に不言実行、つまり、  
なにを言うかではなく、なにをするかでその人の値打ちが決まる、といいます。  
しかし、あなたたち大人がやっていることのせいで、私たちは泣いています。  
あなたたちはいつも私たちを愛しているといいます。  
しかし、いわせてください。

もしそのことばがほんとうなら、どうか、ほんとうだということを行動でしめしてください。

最後まで私の話をきいてくださってありがとうございました。

 『あなたが世界を変える日～12歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ』  
セヴァン・カリス＝スズキ／著 ナマケモノ倶楽部／編・訳 学陽書房発行



## 地球サミット

この伝説のスピーチは、1992年6月11日、ブラジルのリオ・デ・ジェネイロで開催された国連の地球サミット（環境と開発に関する国際連合会議）の会場で、世界の指導者たちを前に行われました。

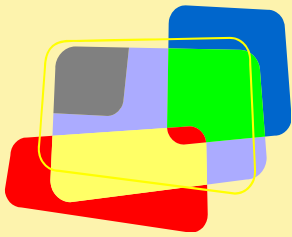
リオの地球サミットは、1992年6月3日～14日開催され、約180の国と地域の代表、国連機関、約8,000のNGO（非政府組織）が参加、延べ4万人を超える人々が集まった史上最大規模で、その後の様々な活動に大きな影響を与える会議となりました。

この会議では、持続可能な開発に向けた地球規模の新たなパートナーシップを構築するための「環境と開発に関するリオデジャネイロ宣言（リオ宣言）」とその行動計画「アジェンダ21」が合意されました。また、「気候変動枠組条約」と「生物多様性条約」が提起されました。会議開催後、「生物多様性」といった用語が一般にも知られるようになり、さまざまな地球環境問題や生態系、絶滅危惧種等に対する一般の関心が高まるきっかけになりました。

国際連合による環境や開発を議題とする会議は約10年ごとに開催されており、2002年に南アフリカ共和国のヨハネスブルグで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議（環境開発サミット）」は第2回地球サミットとも呼ばれています。

なお、この第2回地球サミットをきっかけに日本の提案により、2005年からの10年間を「持続可能な開発のための教育の10年」とすることが決定されました。これは、「環境教育」「開発教育」「人権・平和教育」を3つの柱とし、「共生と公正を基本とした循環型の社会づくり」を目的としています。

# 参 考 资 料




# 目で見るマーシャル諸島



1982年、アメリカに安全保障を委託して経済援助を受けながら外交と内政は自前で行うという自由連合協定を結び、1986年10月に独立国となって国旗を制定しました。24の光芒をもつ太陽は24の自治体を、光線は十字架を、オレンジ色は勇気を、白は平和を表し、斜線は国の発展を象徴しています。

## 人口


 5.9667万人 (2008年世界銀行)

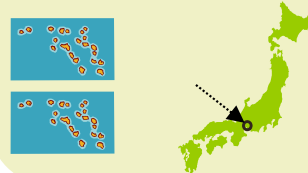
 128.2百万人



## 面積

 180km<sup>2</sup>

 377,887km<sup>2</sup>

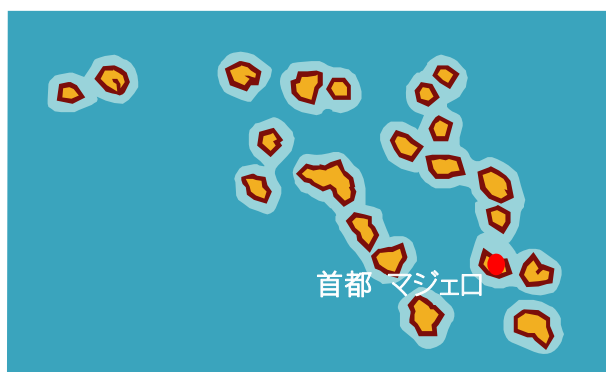


## 言語

マーシャル語、英語

## 宗教

キリスト教  
(主にプロテスタント)



## 気候帯

熱帯雨林気候

## 民族

カナカ族

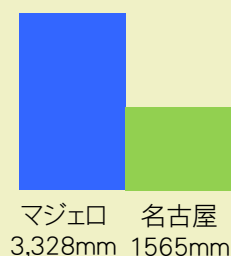
## 通貨

米ドル

## 平均気温

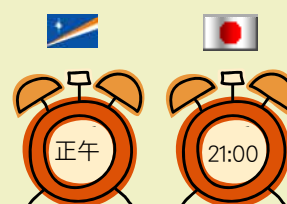


## 年間降水量



## 日本との時差

+3時間

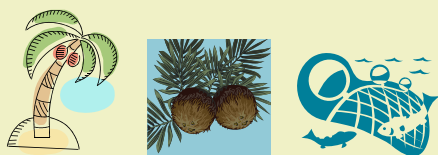


◆国旗:『世界の国旗』吹浦忠正監修 (Gakken) ◆人口・面積・言語・首都・民族・通貨:外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」◆日本の人口:世界子供白書2009 (ユニセフ) ◆日本の面積:総務省統計局「日本の統計」◆気候帯・平均気温・年間降水量:外務省ウェブサイト「探検しようみんなの地球」◆名古屋の平均気温・年間降水量:気象庁観測部観測課観測統計室「日本気候表」(S46~H12年の平均) ◆日本との時差:世界の国一覧表 (財団法人世界の動き社)



### 主要産業


農業(コプラ、ココヤシ油)、漁業




### 日本との貿易



### 一人あたりのGNI

 3,270米ドル(2008年世銀)



 37,670米ドル(2007年世銀)



### 在留邦人数


65人(2008年10月現在)


### 在日マーシャル人数

10人(2008年)




### 都市人口の比率


 67%(2007年)

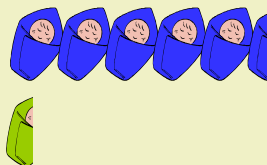
 66%(2007年)



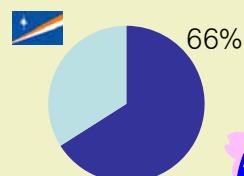
### 5歳未満児の死亡率 (出生1000人あたり)

 54人(2007年)

 4人(2007年)

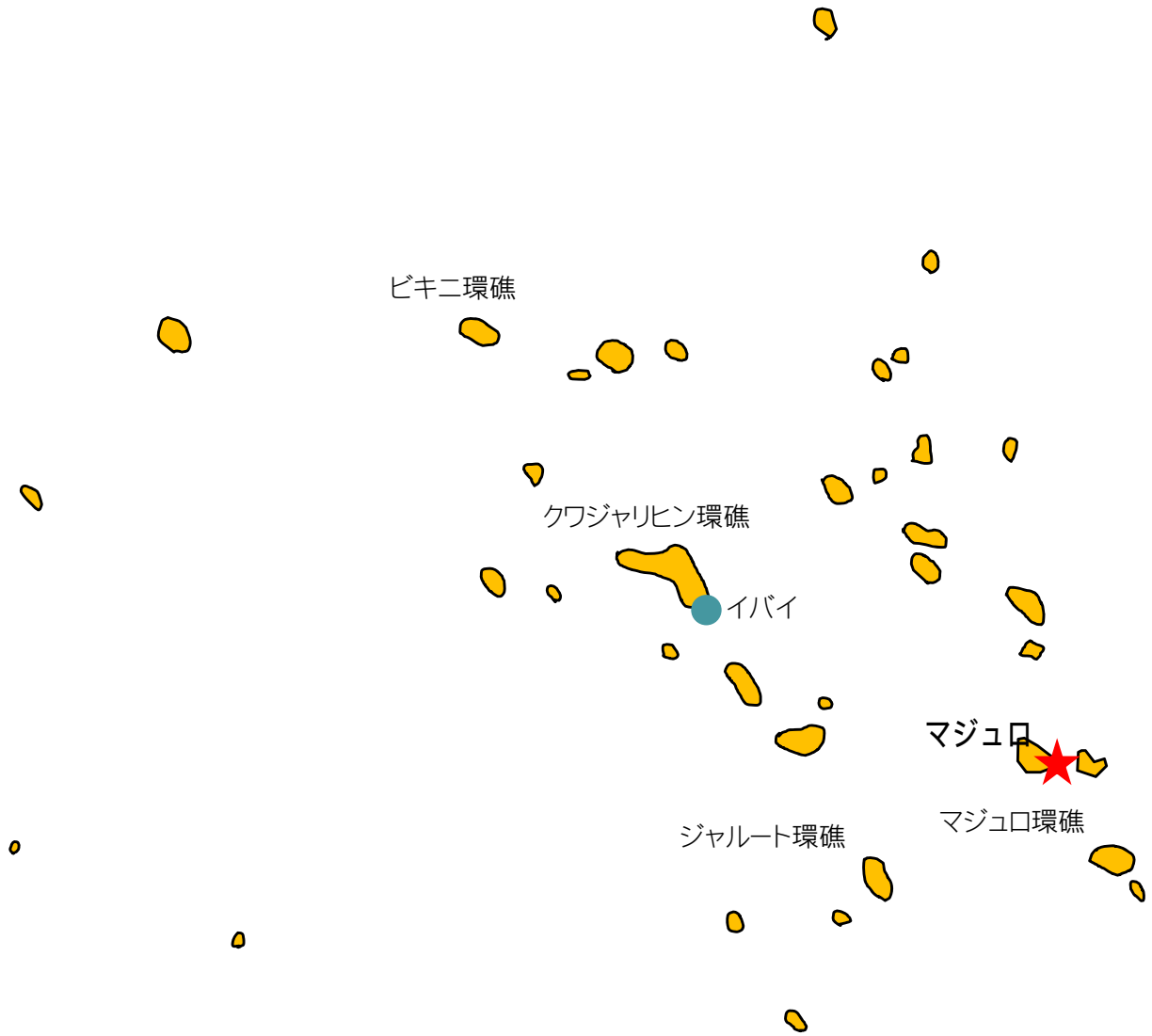


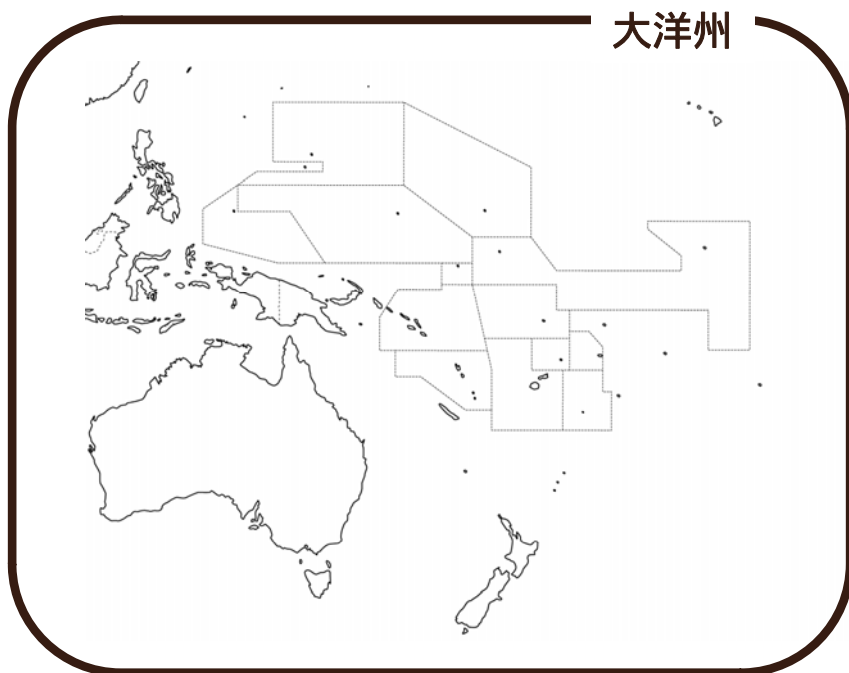
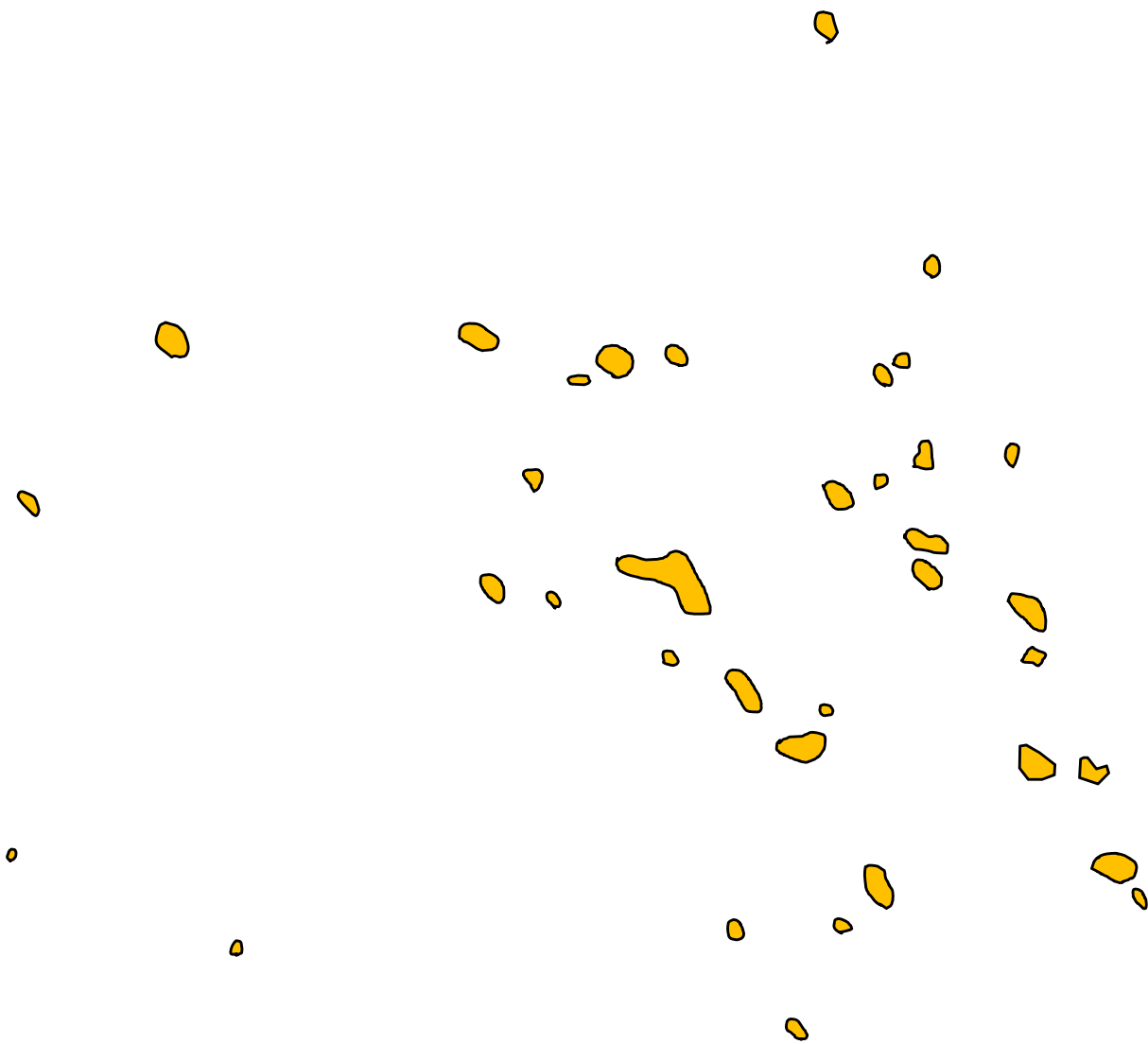
### 初等教育 純就学/出席率 (2000-2007年)



◆主要産業・日本との貿易・在留邦人数・在日マーシャル人数:外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」◆一人あたりのGNI・出生時の平均余命・5歳未満児の死亡者数・初等教育純就学/出席率:世界子供白書2009(ユニセフ)

# マーシャル諸島地図







## 参考文献・データ等の出典

- 外務省「各国地域情勢」  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>
- 外務省「探検しよう! みんなの地球」  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyu/index.html>
- 総務省統計局「日本の統計」  
<http://www.stat.go.jp/data/nihon/index.htm>
- 財団法人日本ユニセフ協会「世界子供白書2009」  
<http://www.unicef.or.jp/library/index.html>
- 国際機関 PIC太平洋諸島センター  
<http://www.pic.or.jp/>
- JCCCA 全国地球温暖化防止活動推進センター  
<http://www.jccca.org/>
- 『マーシャル諸島ハンドブック』中原聖乃・竹峰誠一 著 (凱風社)

## ご協力いただいた方【敬称略】

- 中原 聖乃  
(中京大学 社会科学研究所 特任研究員)



## 2009年度教材作成チーム

安城市	長久手町
東海市	甚目寺町
東海市国際交流協会	東郷町
みよし市	

特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター  
財団法人 愛知県国際交流協会





世界の国を知る  世界の国から学ぶ

## わたしたちの地球と未来

 マーシャル諸島共和国 

2010年3月

**発行  
編集**

財団法人 愛知県国際交流協会

〒460-0001

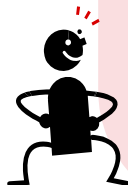
名古屋市中区三の丸二丁目6番1号

あいち国際プラザ

TEL: 052-961-8746 FAX: 052-961-8045

E-mail: koryu@aia.pref.aichi.jp

URL: <http://www2.aia.pref.aichi.jp>



**印刷**

トッパン・フォームズ株式会社

